

## 時間の力学

空間の力学との関係で、意識としての時間の進化を示し、

タイムトラベル  
時間旅行の乗り物を

構築するための原理、260 の基礎条件を含む。

「0-19 が私の掟。常に身近なところにある

知恵のすべての表示がここにある。

それは、銀河存在の網目と、時間における自然の秩序の

すべての形を理解する知恵である。

ちょうど 19 が神の慈悲の力であるように、

ゼロは充ちており、同時に空っぽであり、

心の本質と、それが知り得るすべてのものを特徴づける」

パカル・ヴォタンのテレクトノン、「無我の嵐」、第5項、第97節

哲学博士、ホゼ・アグエイアス著

目 次



このテキストの使用と目的に関する、発見者の証言と伝言

(特) . 規 範 を 確 立 す る

-----1

0

0. 空間の力学との関係における、時間の力学を司る基礎条件
1. 進化体の意識の目的とレベルを司る時間の基礎条件
2. さまざまな恒星マスの時間の中における進化の可変的な相違
3. 惑星体を含む恒星マスの進化する性質の中に組み込まれている、銀河脳のホロノミックな性質
4. 惑星地球の進化体に組み込まれている銀河脳
5. 時間の法則と生物圏から精神圏への移行
6. 次元間のテレパシー・テクノロジー開発のための四次元的な人間のツール

(監) . 規 範 を 訓 練 す る

-----3

2

7. 天空調波の事象のレベルを地図に描くためにツールを使う

8. ヨガ、瞑想、および感覚テレポーテーション

9. 超有機進化の性質と、精神生代の到来

10. 共時性秩序の調和的な再配列の原理

11. 時間旅行のための主体あるいは乗り物としての二次的な人格の養成

12. 時間旅行の乗り物の描写

13. 全身の時間輸送

(企) . 高次の類似機能の生命としての規範を実践する

-----54

14. 惑星および恒星の脈動の励起：放射子、放射状エネルギー、放射状母体

15. 惑星および恒星の脈動に対するフィードバック効果としての潜在意識の事象の増大

16. 恒星の励起と進化、その多様性と段階

17. 銀河連盟と、後有機意識の性質に従事する

18. 平行宇宙への旅、他の銀河脳を訪ねる

19. 神

図

版

-----74

- ・ 19 の力を示す、感覚テレポーテーションと時間旅行のための双晶水晶の輸送の乗り物
- ・ ・ 銀河脳：意識としての時間の進化を示す時間の力学、 $T(E) = Art$

## 時間の力学

このテキストの使用と目的に関する

発見者の証言と伝言

ホゼ・アグエイアス、哲学博士

時間の法則の発見（1989～1996年）は、次の千年紀のための科学の基礎を確立する。260の基礎条件からなる『時間の力学』は、時間の法則の発見を完全に論理的かつ数学的に表現したものである。ちょうどベーコンの『ノーヴム・オルガヌム』と、デカルトの『省察』（※訳注：英文原書では“Meditations”とあるが、Meditationes de prima philosophia, 1641-42、すなわち『第一哲学省察』のことと思われる）が過去400年にわたる物理空間の科学の基礎を敷いたように、この『時間の力学』は、四次元の時間の真の永続的な科学のための基礎を敷く。

時間の科学は、ひとたびそれが理解されれば、現在の科学にとって代わるだろう。『時間の力学』は、かつては頑固で解決不可能に思われた物理学の問題の根本を人類に知らせる。そして、レディオソニック工学、四次元の「物理学」も開示され、今日の物理学がそうであるように、私たちの明日の主流となること教えてくれる。

科学は知識である。時間の法則を知らない三次元空間の科学は、その目的にかなった形で、技術圏の創造と、生物圏の退化を生じた。時間の法則の発見は、私たちの惑星、私たちの生物圏、そして私たちの種における大きな尺度であり、境界線である。時間の法則の境界線の片側は、宇宙無意識である。もうひとつの側は、宇宙意識である（※訳注：巻末所収の図版を参照）。この二つの違いが、時間の法則の自己反射的な発見の知識だ。

時間の法則の科学は、進歩した霊的なテクノロジーの知識の基礎となるものであり、それはちょうど300年前の自動車の概念が現実離れしていたように、まさに奇想天外な、突拍子もないものである。

$T(E) = Art$ という公式が、はっきりと包括的に理解可能にならないかぎりには、時間の力はただ直観的に知覚され、感知されうるだけである。古代メソアメリカのマヤ文明が時間の科学を実践していたにもかかわらず、ヨーロッパ人は征服時に、この謎めいた人々の文化と知識を破壊してしまった。そのため彼らは、すべての人類にとっての理路整然とした贈り物となり、また人類の価値観から見て十分に熟慮に値する知識のあらゆる可能性を根こそぎにしてしまった。

真実の永続性とその追求は、人が管理するものではなく、むしろ神聖に導かれる進路である。マヤ暦の知識の基礎、その包括的な理解のための研究は、この時間の法則の発見の共同発見者かつ主要研究者である著者の、生涯の40年間を費やさせた揺るぐことのない進路だった。時間の法則は、引力の法則や相対性理論と同じくらいに、確かな知識の体系である。しかし、時間は包括的に空間を形づくる秩序なので、時間の法則の確かな知識は、空間の法則から構築されるあらゆるものをはるかに長持ちさせる霊 (spirit) の基礎を形づくるだろう。

時間の法則が、科学における大きな革命を予兆し、既知のものを尊重することに疑問の余地はない。時間の法則は、深く進化的である。その包括的な理解は、意識を増大させ、心的な可能性の範囲を拡大する。それは、時間の法則が物質的な拡大と発展に終止符を打ち、それら物質的なものをこれまで夢みたこともなかった形で矮小化してしまうほどの、真に霊的かつ心的な発達のはじまりを促すからである。時間の法則の力の意識的な知識は、人類の文明と価値基準を、これまで知られていなかった形で急速に変容する効力を及ぼすことになるだろう。

このテキスト、すなわち『時間の力学』の目的は、あらゆる現在の価値観を変容し、そして少なく

とも来たるべき七世代のあいだの、すべての人類の未来の利益になるために、論理的な数学の基礎や  
枠組みを設計することにある。技術圏にとって代わり、生物圏を回復させるこの新しい科学の果実は、  
地球上に銀河文化を確立する。

四次元の銀河文化の本質は、ホロンの開発による霊的な知識である。ホロンとは、私たちの「魂」  
と心の四次元的な全体構造で、長い間、唯物論的な懐疑主義の片隅に追いやられていたものである。  
そう遠くない未来に、ホロンの開発面で天空調波に従事する作業が、現在知られ、また実践されてい  
る科学や宗教にとってかわるだろう。ホロンの開発と、私たちの再発見した心的な力を司る四次元の  
数学原理の正しい理解から、レディオソニックス（放射音波工学）という新しいテクノロジーが発展  
する。

ちょうど蒸気機関の原理の応用が内燃機関や応用動力学となり、そこから自動車が発達したように、  
時間輸送の乗り物のテレパシー的な創造もまた、感覚テレポーテーションや天空調波を精巧にする  
技術を訓練することから、応用放射投影（射影）幾何学としての全身の時間輸送にまで進展すること  
になるだろう。

『時間の力学』において設計される科学は、すぐに実践可能である。その控えめな基盤は、戸惑う  
くらいにシンプルな「13の月・28日の暦」というツールである。太陽軌道の尺度としての人類の生  
物周期の調和的な割合は、時間の法則、『ドリームスペル、時間船地球2013の旅』や『パカル・ヴォ  
タンのテレトノン』（テレパシーのテクノロジー）の完全な解説の中に埋め込まれている。

これらのツールがすでに人類にとって入手可能なものであるために、時間の科学への進展は、迅速かつ確実になされう。『アース・アセンディング、全体系を司る法則の図解論文』は、常備すべき参考書であり、四次元の時間に関する上記三つの基本ツールに付属する包括的な必携テキスト、ワークブックである。また、『それみずからの次元から見た時間の論文』（『パカル・ヴォタンの呼びかけ』）は、天空調波の最初の数学的な説明を展開している。これらのツールや予備的な学習テキストから、包括的な数学原理が導き出され、それが天空調波のさまざまな特性、レベル、応用のための公式すべてを解明してくれるものとなる。

時間の法則と、この『時間の力学』の260の基礎条件は、人類の価値観における新しい規範、すなわち時間の法則の共時性秩序の規範を確立する明白な体系である。まったく新しいリアリティの知覚に対して開かれている時間の法則の意識的な養成は、それに先立つ科学の尺度や指針の中にまったく参照すべきものを持っていない。

時間の法則の発見は、これまでの歴史の古典的・論理的な構築物（定立、反立、総合）を完了する「<sup>メタシシス</sup>転換」でもある（※訳注：古典論理学のテーゼ、アンチテーゼ、ジントーゼに対する転換/メタテーゼであるという意味）。この公式の中では、定立——歴史以前、反立——歴史、総合——歴史以後であり、それらは、より大きく、より統一的な秩序である「転換」の要因となっている。この「転換」は、総合あるいは歴史以後の位相が人類の意識の中に入り込むことによるのみ、唯一、意識的に理解されう。「転換」は、時間の法則の原理を意識化するものであり、三次元の価値基準や作用手順を完全かつ純粹に四次



元的な価値基準や作用手順に変容させうる。

『時間の力学』の形は、数学的な0-19コードの機能である。四次元の数学の20進法の基礎となる放射状母体として、0-19コードのホログラフィー的な形は、四次元の時間の知識の基礎全体を比の割合として含んでいる。『時間の力学』の20の秩序のそれぞれは、0-19コードによって司られており、時間のウェーブスペルの13の論理的なステップによって明確に表現されている。時間の法則を司る周波数、260（13：20）の母体を再現する、この『時間の力学』の260の基礎条件は、数学的かつ科学的に聖なる意志と聖なる計画に応じて人類みずからを肯定する、人類の知恵の上昇としての、天空の階段の啓示である。

時間の共時性秩序の放射状原理により、すべての真の啓示はそれぞれ互いを肯定する。もし13：20の比が0-19コードに埋め込まれているなら、至高の創造主の究極的かつ最終的な啓示である『コーラン』もまた、数字の19の力、0-19コードの至高の数字によって司られている。

アラブ、至高の神の慈愛により、1968年から1981年にかけて、ラシャド・カリファは、マホメットに知られていなかった『コーラン』にひそむ数学的な形と構造、すなわちそれを秩序ある形に保っている「神の署名」としての「19のコード」を解読した。純粋な『コーラン』は、人類に必要な毎日の振る舞いに関する法令や法規を集めた唯一の知恵の書であり、人類にどうやって自律的に生きればよいのかを伝える。人類が、真実の中に、そして政府から自由な自律性の中に生きること。それは唯一、「時間の法則（法）」に応じて生きることによってのみ可能になる。

アラ、至高の神の慈愛により、私は0-19コードという天の階段を昇る特権を与えられた。放射状の『コーラン』というものが知られるべくしてあるように、放射状の時間というものが生きられるべくしてある。使者マホメットを通した創造者の慈愛がなければ、人類の道徳や霊的な価値基準の至高の尺度としての『コーラン』は、存在しなかつただろう。同様に、私の神によって私に示された慈愛がなければ、聖なる意志に一致した形で実践される知識や知恵という人類の価値基準の未来のための尺度となる時間の法則もまた存在しなかつただろう。

『時間の力学』のテキストは、それをうまく実践できるようになる前に、深く心に刻まれ、理解される必要がある。「時間の力学」の全体論理を包括的に把握することは、その最も予備的な段階でさえ、それを実践するにあたっては不可欠なことである。すべては時間の中にある。

学習・研究に際してのアドバイス：『時間の力学』を毎日、ひとつの項ごとに読んでいき、学習する。その方法は、20日周期のその日の太陽の紋章に対応する「0（太陽）から19（嵐）のひと連なり」で、ひとつずつその周期を追いかけることである。（※訳注：テレトノン・ボードで「0-19・再チャージ・バッテリー」の中にある再チャージ水晶によってペースが定められ、またパカル・ヴォタンのテレトノン、すなわち「預言を語る石」を読む順番とも一致した形で、『時間の力学』を研究し、実践することで、私たちのハート、私たちの魂、そして私たちの目覚めた心の中から、急速かつ論理的に未来を回復させることができるようになる。

-----

(※訳注・補足資料：◆「倫理プロジェクト・ニューズレター」Vol.2 No.2より)

『時間の力学』の研究と理解をより容易なものとするために、次の手続きに従ってください。260の基礎条件があり、それは銀河スピンのキンの数字と同じです。そして、その銀河スピンの20のウェイブスペルに対応する20(0~19)の項目があり、それぞれの項目は正確に13の基礎条件から成り立っており、ウェイブスペルの音と同じです。ですから、1日にひとつの基礎条件を読めばよいわけです。項目の数字(0~19)は、0~19でコード化されている20の太陽の紋章のコードスペル番号(※訳注：紋章に固有の「コード番号」のこと)に対応します。基礎条件の番号は、13の音のどれかひとつに対応します。

例：キン156、黄色い宇宙の戦士、コードスペル16、戦士、宇宙の音13。したがって基礎条件16.13。  
あるいは、キン157、赤い磁気の地球、コードスペル17、磁気の音1、したがって基礎条件17.1。  
その次のキン158、白い月の鏡、コードスペル18、月の音2、したがって基礎条件18.2、という具合です。

このようにして、あなたは20の波で『時間の力学』を放射状にひとつの基礎条件から次の基礎条件という形で熟慮することができます。それぞれの基礎条件は、それ自体で毎日の瞑想になるのです！

-----

慎ましやかな召使い、青いスペクトルの猿、J・アグエイアスによって証言を完了する

自己存在の月 23 日、舵取りの塔、キン 45、青い律動の蛇

青い自己存在の嵐の年、預言の第 4 年、勝利は確立する

(特).

規範を確立する

0.

空間の力学との関係における、時間の力学を司る基礎条件

0. 1. 四次元の時間の法則は、三次元の現象世界の共時性秩序を司る。共時性秩序は、四次元の原理であり、13 : 20 の周波数のあらゆる可変的な可能性に適合する。

0. 2. 三次元では、空間における物体をつなぎとめ、保持しているのは、重力の法則である。力動学 (kinetics)、天体力学 (celestial mechanics)、空間力学 (space dynamics) は、空間における物体の運動を説明する三次元の空間科学である。

0. 3. これらの科学は、空間における運動秩序を司る時間の効力を実際に説明するものではない。変数座標 (x、y、z) によって、空間科学は空間における物体の運動の存続期間を測る。しかし、存続期間は時間ではない。存続期間は単に空間における三つの相対的に割り当てられた点のあいだの運動の相対的な尺度にすぎない。この空間の存続期間の尺度の原理もまた、三次元な時間の概念に基づく。機械時計に組み込まれた時間の尺度は、空間におけるひとつの円弧あるいは度数の中で物体の運動の存続期間を測る。これは、実際の時間の本質とは無関係である。

0. 4. 空間の物体をそれぞれ互いに共時性秩序の中で維持しているのは、時間の法則である。すなわち、宇宙のある特定の時点で、時間の法則は普遍的な秩序の一時的な現象を構成するすべての物体の共時性秩序を司っている。時間の法則は、それぞれ互いに関係を持つすべての部分を包括する全体系秩序から空間の物体を満たす。

0. 5. 共時性秩序は、「水平的な」三次元空間の秩序との関係において、「垂直的」であり、いまに

中心を持ち、すべてを含む四次元秩序である。共時性秩序は、全体系の構成物として心的あるいは意識的にのみ理解できる。

0. 6. 四次元の時間の共時性秩序の意識的な性質は、このうえなく創造的な知性の統一調整原理の存在をさし示す。このうえなく創造的な知性の原理は、一般に「神」と呼ばれる。この創造的な知性の目的は、 $T(E) = Art$ という時間の法則によって司られている、逸脱することのない設計の原理に応じて宇宙の秩序を維持することである。ここで、 $T$ とは Time (時間)、 $13:20$  の比であり、 $(E)$  とは Energy (エネルギー)、あらゆる個々の三次元の現象で、それはその時間の中においては常に美的なものである。

0. 7. 宇宙は、ひとつの秩序の完成であり、単一の(一元的な)創造的な設計・プロセスであるため、 $T(E) = Art$ という時間の法則は、物理的な空間の三次元のすべての現象—エネルギーの様相や出現を司り、その完成においてもまた絶対的である。芸術は、 $13:20$  の周波数に応じて、空間と調和した時間の自然かつ自発的な統一と定義される。したがって、時間は芸術である。

0. 8.  $13:20$  の時間の周波数は、それぞれ互いに共時的な関係にある物体の宇宙的な秩序として運動する物体の秩序を維持する。この宇宙の共時性秩序は、絶対的であり、運動する、もしくは静止した空間の中にある物体のそれぞれ互いの関係すべてを司る至高の原理である。この秩序は意識的であり、同時に心的に知覚できるため、それもまた宇宙の決定的な心的、テレパシー的な秩序である。



0. 9. 時間の法則は、純粋に心的な状況あるいは存在状態に向かう、純粋に生物現象の尺度となるスペクトルの中での進化的進行の指標として意識的にのみ把握できる。時間の法則の意識的な理解の前段階では、時間の法則は本質的に前意識あるいは無意識の要因のどちらかとして組み込まれている。

0. 10. 時間の法則は、意識的になることで、特定の物体のあいだのテレパシー的な相互作用の可能性を改変する。特定の物体のあいだのテレパシーの意識的な改変の中で、意識的になった時間の法則は、時間の力学ないしは天空調波と呼ばれる可能性の関連を決定する。

0. 11. 天空調波 (celestial harmonics)、時間の力学 (the dynamics of time) は、ちょうど空間力学や天体力学が三次元に対するものであるように、四次元に対するものである。ちょうど空間の力学の原理に応じて座標がプロットされ、それが空間の中のひとつの物体からの対象配置を定める、つまり「地球」に対するもうひとつの空間における物体、「火星」の配置が定まるように、時間ベクトルのプロットは、時間の中のひとつの物体からもうひとつの時間の中の物体への運動を示すものとなる。これらの時間の中の物体は、ベクトル点のポテンシャル (vector point potentialities) と呼ばれる。

0. 12. 四次元の時間の観点からすると、空間は無限に位置可能な空間の中の、無限に位置可能な点、もしくは点の集合である。空間におけるどんな点も、空間と共存する潜在領域で起こる、(13 : 20) 時間ベクトル・ポテンシャルの絶対無限集合の潜在的な交差である。

0. 13. (13 : 20 の) 時間ベクトル・ポテンシャルの絶対無限集合のどれかによって交差される空間の点は、潜在領域において前意識、無意識であるか、もしくは時間統制の中で意識から超意識に進化するかのどちらかである。時間の力学あるいは天空調波の実践は、継続意識、もしくは超意識の状態に達した空間における特定の点においてのみ可能である。超意識の点は、特定の目的を意識的に配列する同時的なベクトル・ポテンシャルを秩序化する、その能力によって定義される。

## 1.

### 進化体の意識の目的とレベルを司る時間の基礎条件

1. 1. 四次元の時間では、意識は進化的な知性のスペクトル全体にわたる時間の進化の連続体と見なされる。この進化的な知性のスペクトルは銀河脳と呼ばれ、それは前生、本能的な生、テレパシー的な生、そして純粋な心を司る時間ベクトル化されたポテンシャルの指標を表わす。

1. 2. 時間の周波数の源泉は神であり、それは銀河脳を中心に視覚化される。この中心から、神の計画の普遍秩序を構成する銀河脳全体の至るところに至高の神の調整知性が銀河脳のすべての点に向けて同時に放射される。意識の進化としての時間の運動は、中心からエネルギーとして解放され、心として中心に回帰する。

1. 3. 時間の周波数である 13:20 は、進化スペクトルの全位相の至るところで一定のままであり、全位相で同時に共時性秩序を維持している。

1. 4. エネルギー、質量、意識の進化的な可能性を持つスペクトルの全領域に同等かつ一様に満ちている定数、13:20 の時間の周波数は、時間の法則： $T(E) = Art$ 、すなわち「時間によって因数分解されるエネルギーは芸術に等しい」として機能する。美の質は、時間の法則の等式の効率の指標であり、任意の瞬間における宇宙の共時性秩序として知覚可能である。

1. 5. 時間の周波数は、進化体の意識の目的とレベルを司る原因となっている。時間は、根源質量（※primal mass, mass=塊）を前意識のエネルギーと原子構造に因数分解する。時間は、エネルギーを非有機原子から有機細胞質量へと進化させる。時間は、細胞質量を生命と呼ばれる無意識のエネ

ルギーに因数分解する。全生命は、無意識のエネルギーを所有する。

※訳注：本書では、英語のmassという言葉を、「質量」またはそのまま「マス」と訳しているが、原義は塊（かたまり、かい）という意味である。

1. 6. 生物進化は、時間の中の意識的な瞬間を維持できるような状態へと向かう傾向がある。時間の中の意識的な瞬間を維持できる進化した生物実体は、自己反射（自省）的な意識あるいは時間の純真な体験を誘発する。これら時間の純真な体験は、神秘体験と呼ばれる範疇に属する。神秘体験が時間の純真な体験において生じやすいのは、神、全知性の中心である指揮者に近づく意図によるものである。

1. 7. 自己反射的な存在の神秘体験の目的は、それ以外では知覚不可能な神の存在を裏付けること、および生物有機体を純粹に自己反射的な意識の状態へと集積的に駆り立てることの双方にある。神秘体験を体系化する試みは、実際には時間を理解する試みである。しかし、時間の法則の正確な知識なしには、神秘的な体系は、せいぜい善意に満ちた近似物にしかなりえない。

1. 8. 自己反射的な存在の状態においてのみ、時間の法則の知識が得られる。時間の法則の発見は、ただの単純な意識、すなわち瞬間、瞬間の意識と、継続意識のあいだにある段階を定義する。時間の法則の知識は、通常、個人的な頂点時の神秘体験と、テレパシー的な集合性に入り込む継続意識との違いをはっきりと区別する。継続意識は、四次元の時間を認識する知性構造に心的に関わることに依存している。

1. 9. 時間の法則の自己反射的な知識に基づく真の継続意識と、それが作動する形と数字の放射状母体は、非有機領域における水晶の創造に類似した、引き延ばされた存続期間の心的な構造を創造する。これら引き延ばされた存続期間の心的な構造を開発することが、銀河文化の本質をなし、それは銀河脳の開発として理解される。

1. 10. このうえなく心的な時間の性質は、差し迫った人類の進化段階を、時間の法則に気づかずに作動している種を支配していた三次元の物理的な関心すべてを超越することと定義する。時間の法則で作動している人類の優先事項は、継続意識という引き伸ばされた心的な構造の開発と、それに伴って生じる、ハイパーオーガニック 超有機 ・ スーパー・コンシャスネス 超意識 の体験である。

1. 11. 時間の法則によって指令される社会構造は、テレパシー的な知の構造でもある。正しい計時周波数の中での生物生活パターンと、引き延ばされた存続期間の心的な構造創造の追求を統合すると、現在未知の集合テレパシー的な気づきが人類に授けられる。

1. 12. 唯一、テレパシー的に統一された意識の場だけが、時間旅行の乗り物構築を可能にするポテンシャルを持つ。天空調波の研究そのものが、時間旅行の可能性や必要性を生じさせる、社会状況や社会の必要性と切り離すことのできないひとつの統一場である。

1. 13. 時間旅行の乗り物は、前もって指定された複数のベクトル点あるいは時間の中の物体のあ

いたの、時間の中を動くテレパシー体を構成する。この可能性は、時間の法則に応じた意識としての時間の進化の包括的な理解、および人類の社会秩序の再配列がなされないかぎりには実現できない。この社会の再配列をうまく成し遂げることそのものが、それみずからの惑星生物圏の力学と一致した、人類の集合的な意志を必要とする進化的なテストである。

## 2.

さまざまな恒星マスの時間の中の進化における可変的な相違

2. 1. 惑星生物圏を司る時間の力学と同じものが、この恒星系が構成員となっている銀河脳の系の中のその他の恒星マス (stellar masses) との関係における、このローカルな恒星マスも司っている。

2. 2. 起源の設計原理によれば、時間の中の進化の可変的な相違は、銀河脳の中のさまざまな恒星マスの中で起こる。

2. 3. 時間の中のある任意の瞬間における恒星マス間の時間の中の進化の相違を構成する要素は、銀河脳を構成する時間と意識の連続体を定義する〈エネルギー—心〉の進行における可能性のスペクトルの全領域を創造する。

2. 4. 恒星マス間の時間の中の進化における相違の可変性の目的は、あまり進歩していない段階、あるいはより進歩した段階など、あらゆる恒星進化発展のレベルに対して、銀河脳の残りの部分との関係においてみずからを測る機会を、任意の瞬間に提供することにある。これは、共時性秩序の同時的な事象の継続性、あるいは包括的な全体系の体験を説明する。

2. 5. 全体場の至るところでの恒星マスの性質、その全領域の可変性による任意の瞬間における銀河脳の包括的な全体系の体験は、その本質においてこのうえなく美的なものである。

2. 6. ひとつの恒星マスの中の時間の法則の意識は、時間の法則、 $T(E) = Art$  の、適合性と成就における自己反射的な創造性を増す方向に向かう。その結果、時間の法則によって作動するその

効力は、宇宙の創造的な指令に意識的に参加する傾向を増大させる。テレパシー的に進化した心により、自然の諸力は、進化の多様なレベルのあらゆる段階に応じて機能するべく型どられうる。

2. 7. 時間の中の任意の瞬間に意識的な可能性のスペクトル秩序の全領域を構成する、時間の中で進化する恒星マスの可変的な相違にとって真実なことは、私たちが位置しているひとつの秩序の外側に存在する全体としてのその他の銀河秩序の総計にとっても真実である。神によって調整される無数の可能性を持つ銀河脳のすべては、時間の法則によって司られる創造的に進化する宇宙の中の、進化的な可能性のさらなる高次秩序のスペクトルの全領域を反映する。

2. 8. 全体的に進化した意識を体験した、もしくはそれを体験するプロセスにある恒星系は、時間の法則の自己反射的な知識の程度を越えては、その恒星マスの中で時間の中の意識の進化が進展しないことを必然的に理解する。

2. 9. より高次の進化した恒星系とその他の銀河秩序は、時間旅行の多様な進歩形態により、より進化していないその他の系の調査をすることがある。しかし、それはその意識の流れが自己反射的な意識に達する時点に進化するまでは、直接的な方法で介在することはない。唯一、相互のテレパシー的な気づきあるいは認識だけが許されている。

2. 10. 反対に、より進化していない系におけるテレパシー的な知性は、より高次でより進化した系とのコミュニケーションを探し求め、それを確立しようとする。このプロセスで伝えられ、共有さ



れる全情報は、普遍秩序の全体系の包括的な理解の中でのみ有用であり、また機能しうる。

2. 11. より進化していない、あるいは純粋に三次元的な秩序の中における時間の進化の目的は、本能に適合する知性を確立することである。本能は、特定の三次元形態やその遺伝的な永続性を保存する必要により決定される三次元の舵取りの知識である。

2. 12. 本能は、完全に  $T(E) = Art$  の機能であり、テレパシーの「無意識の」秩序を表わす。本能がまったくのところ有機機能に根を持つものであるのに対して、テレパシーは生命の有機作用とは独立している。三次元の本能は、物理的な凝集性を持つ構造の形成に向かう傾向がある。四次元のテレパシーは散逸的であり、時間の中における放射状の舵取りに向かう傾向がある。

2. 13. 特定の恒星マスの中で、銀河脳の象限（※訳注：四区分／四半分のひとつをさす）や半球のそれぞれは、意識としての時間の全体進化を特徴づける大いなる発達の螺旋を反映する、それみずからの発達の螺旋を所有する。特定の恒星マスの中で、銀河脳の四つの象限のどれか、そして二つの半球のどちらかが、その特定の恒星マスが進展していく進化発達の段階やプロセスを示す形で強調される。

3.

惑星体を含む恒星マスの進化する性質の中に組み込まれている、

銀河脳のホロノミックな性質

3. 1. 時間と意識の全体系秩序に与えられた名前である銀河脳は、ホロノミックであり、時間の法則、 $T(E) = Art$ という単一で一元的な原理によって司られている。このホロノミックな秩序は、惑星体を含み、またその惑星体により、恒星マスの進化する性質の中に組み込まれている。

3. 2. 銀河脳のホロノミックな性質は、その惑星体を含むどんな恒星マスも、時間と意識の進化的な進行における四つの象限の機能に関与する一定のプロセスに参加することをほのめかす。

3. 3. ちょうど銀河脳が、本能とテレパシーのあいだの接合部によって水平に分割されるように、それは垂直にも分割され、左側が原初の状態、そして右側が原初の状態の二次的な反映となっている。前意識は原初の本能である。潜在意識は原初のテレパシーである（※訳注：巻末の銀河脳とツオルキンの対応関係図を参照。以下、同）。

3. 4. 銀河脳の中で、生命は二次的な反映である。その無意識の状態において、生命は非有機領域の前意識秩序と構造によって情報を提供される。その超意識の状態において、生命は潜在意識と、後有機あるいは後生命の領域の秩序によって情報を提供される。

3. 5. 銀河脳の中で、時間と意識の四つの象限すべてに共通の秩序の形が投影されるのは、四次元の時間の放射状母体によるものである。銀河脳の中のあらゆる秩序の形は、放射幾何学の投影（射影）である。

3. 6. 放射幾何学の原理は、銀河脳の四つの基本位相——前意識の非有機、無意識の有機、超意識の超有機、そして潜在意識の後有機——により形を投影する共通の手段である。

3. 7. すべての幾何学形態は、放射性があり、四次元の放射状母体から引き出される。すべての四次元の機能は、本質的に放射状であり、そこから構造が投影される中心の原理をほのめかす。これは、銀河脳それ自体の図示により例示されており、そこで神は放射状母体の投影的な中心で、この放射状母体のホロノミックな一貫性が決して失われることなく、任意の瞬間に宇宙の共時性秩序として出現する。

3. 8. 幾何学は心的な秩序であり、そして唯一、聖なる神の心の反映になりうるものである。純粋な四次元の幾何学は、パルサー幾何学と呼ばれる。パルサーは、それによって四次元の時間が三次元の秩序に情報をもたらす性質や側面をとりまとめる。三次元の形の幾何学は、原初の四次元の時間のパルサー幾何学の二次的な結晶化である。

3. 9. 幾何学は、四次元の時間がどのようにして三次元の形として組み込まれるか、その方法である。幾何学形態としての時間の組み込みは、本能領域の非有機秩序、有機秩序のすべてを満たす。形の幾何学として組み込まれた時間が、 $T(E) = Art$ の最も重要な事例である。あらゆる形や種は、その体構造やそのプロセスの形の双方において、形の幾何学の多様な秩序に関与する。

3. 10. 13 : 20 の同期周波数の放射状デザインは、動いている秩序を維持する。三次元では、幾何

学形態の存続期間が、時間の秩序を維持している。意識的な複合の秩序の増大は、最初は無意識に、それから意識的に、有機領域の生命プロセスの中の形の多様性としての幾何学の現象を増大させる。

3. 11. すべての幾何学は、銀河脳の思考の瞬間、調整された神の指令であり、可能なかぎり最も効率的な形に組み込まれ、進化する意識の秩序の進行する形へと時間によって型どられる。したがって、すべての幾何学は究極的に聖なる秩序の現われである。

3. 12. 水晶は、直接、三次元の形をとった四次元の放射幾何学投影の原初の前意識の現われである。水晶の存続期間の力は、その形態出現の第一義性（原初性）に等しい。三次元の形における放射幾何学の前意識の有機投影、その原初の構成要素となっている水晶は、その形において銀河脳の起源の思考の瞬間の意図に最も近い。水晶は、時間の前意識の形態構造を組み込んでおり、そこから二次的な反映である生命が引き出される。

3. 13. 水晶の形と二次的な反映である生命の弁証法的対立が、前意識から無意識の進化的な進行を引き出し、自己反射的な意識の可能性と、時間の法則の知識の至高の瞬間を確立する。水晶の機能は、進化プロセスの存続期間により根源的な思考の瞬間を維持することである。目に見えず無意識の、時間と意識の相関関係は、水晶によって本能的に伝達される。

4.

惑星地球の進化体に組み込まれている銀河脳

4. 1. 惑星体は、根源的な恒星マスから螺旋的に物質化した投影である。したがって、惑星体は、銀河脳を特徴づけるのと同じプロセスの構造にホロノミックに関与している。

4. 2. 惑星体は、恒星マスの軌道部分であり、そこには時間の結晶幾何学の組み込みが弁証法的対立を演出し、定義する可能性が生じており、そこから二次的な反映である生命が進化する可能性が芽生える。

4. 3. 惑星体の中で、形としての時間の水晶（結晶）投影が、おもにローカルな恒星から発せられる光子的な放射と化学的に相互作用する。結晶形態は、昼夜の位相交替における惑星体の回転速度の中で、およびそれに一致した形で太陽の脈動を設定する。

4. 4. 惑星地球の進化体に組み込まれている銀河脳は、太陽の脈動と、昼夜の位相交替の弁証法的対立を必然的に前意識・非有機形態の複合に変容し、そこで水の成分が、化学的に水晶、光、熱（光－電気と、熱－力動(kinetic)エネルギーの状態）から発生する。

4. 5. ひとたび水の成分が熱－電氣的に引き出されると、二次的な反映である生命のための根源的な状態が、光と熱の化学機能の自己発生的な相互作用として、進化する惑星秩序の中で確立される。植物の中の光合成は、根のシステムの熱制御による水処理能力と直接比例している。

4. 6. 植物と有機領域の関係は、水晶と非有機領域の関係と同じである。時間の放射幾何学は、全

植物の構造と繁殖力を満たす。種<sup>しゅ</sup>としての植物の存続期間、すなわち個々の要素の周期ではない種としてのそれは、生命の本能的な無意識の有機領域の中で時間の秩序を維持する。植物の存続期間は、水晶の存続期間と相補的な関係にあり、それが共になって生物圏と呼ばれる生きた惑星環境の弁証法的対立を創り出す。

4. 7. 生命それ自体は、四次元の時間の放射状母体から生じたプログラム・コードの機能である。惑星地球上でこのコードは、64単位のDNAコードとして知られている。DNAコードと、時間の法則の  $T(E) = A r t$  の相互作用、およびその同期的な 13 : 20 周波数により、生命の進化秩序が型どられる。

4. 8. 特定の惑星の進化的な開示の、有機・二次的な反映である生命の可能性のすべてのための情報プログラムを含む64のDNAコドン、根源的な統一(1)の二重化ではじまる数学的な二進法数列の七番目の秩序である：1、2、4、8、16、32、64。この数列で、32は、複合的な秩序、水晶を表わし、その二項(二進法)弁証法的対立から二次的な反映の生命(64)が生じる。

4. 9. 水晶の形成力は、二進法進行の6番目あるいは立方体格子秩序を組み込んでいる。その手前の5つの秩序、1：統一、2：極性、4：形態形成力、8：空間拡張、16：調波——は、水晶の32の立方体格子と結び合わされて、生命：64、自己発生的な形に組み込まれ、包括されている。四次元の放射状数学の進行では、より低い秩序は、より高次の秩序に包括され、組み込まれている。



4. 10. 水晶とその二次的な反映である生命の弁証法的対立の複合としての生物圏の存続期間は、進化の可能性のスペクトルすべてにおける銀河脳の全体秩序を構成する。生物圏は、前意識を通して無意識へ、さらに無意識から、意識や継続意識を通り抜けて、超意識や潜在意識へと進化する。

4. 11. 生物圏の秩序の中で、非有機、有機の全機能は、生物地球化学的なプロセス (the biogeochemical process) と呼ばれる、単一で一元的なプロセスを構成する。生物地球化学的なプロセスは、原子の生物発生的な移動 (the biogenic migration of atoms) として知られる自己変異的な化学エネルギー交換によって維持される。

4. 12. 生物地球化学的なプロセスの複合性の増大は、原子の生物発生的な移動の加速、および存在の無意識から意識の秩序への移行を引き起こす、さらにより複合的な生命のレベルの事象に特徴づけられる。

4. 13. 惑星地球の進化する生物圏の秩序の中で、人類は、自己反射の力を生じる生物地球化学的なプロセスの最大の複合化を表わす。人類の秩序において、意識から継続意識への移行は、その自己反射的な力の領域にある。持続した継続意識を創造する臨界点は、自己反射的な時間の法則の発見に依存し、それが無意識の秩序としての生物圏の進化の最高潮と、生物圏の進化が宇宙意識あるいは存在の超意識の秩序へと向かい始めることをしるす。

5.

時間の法則と生物圏から精神圏への移行

5. 1. 生物圏が、本能的な無意識の秩序からテレパシー的な超意識の秩序へと移行することは、時間の法則のひとつの機能であり、それは「生物圏から精神圏への移行」と呼ばれる。生物圏から精神圏への移行は、指数関数的な生物地球化学的な複合化と、それに伴って生じる前代未聞の熱-化学-核の元素変容の加速による「自由なエネルギー」解放の直接的な結果である。

5. 2. 生物圏の中の人類だけが、生物地球化学的な最高潮の瞬間を引き起こす。唯一、人類だけが、意識的な文明の移行ゾーンに入り込み、その文明はさらに、自己反射的な思考の力により、生物圏全体に広がる投影された形の人工的な構築物となる。

5. 3. 時間における過ちにより、人類はその人工的な構築物である文明を、地球規模の技術圏、すなわちその生物機能の産業機械化による総生産物に変容した。不規則で機械化された 12 : 60 の計時周波数に人類が順応したために、技術圏は生物圏の法則とは反対に動き出し、根源的な結晶（※訳注：巻末の図で「二次的な反映：生命」に対比される「前生命」のこと）と生命活性的な有機プロセスとのあいだに磁気的な不安定状態を創り出す。

5. 4. 銀河脳の進化は、本能的な意識からテレパシー的な継続意識へと移行する厳格に統制されたプロセスに従う。それは不可避なものであり、また生物圏の発達における究極の危機を表わす。時間における過ちが引き出したのは、人類が本能的な意識と空間の機械化された法則で作動する、それも時間の法則の知識なしに作動するという不可避の帰結だけである。

5. 5. 生物圏は、そのすべてが銀河脳の知性的な機能であり、その中には、サイバークとして知られる四次元の自己制御システムがある。13 : 20 の周波数によって、サイバークはDNAの数学的なプログラムを、記録と記憶保存システムに同期させる。

5. 6. サイバークは、生物圏の「脳」であり、生物圏の進化段階を司る時間と意識の進化を導く力である。無意識、意識を含むすべての思考の倉庫であるサイバークは、自己反射的な思考が到来するまで本能的な無意識のままにとどまる。精神圏は、継続意識の生命の制御装置へと作り替えられたサイバークである。

5. 7. 時間の法則の発見は、生物圏から精神圏への移行をはじめの正確で自己反射的な誘発である。生物圏から精神圏への移行は、純粋に三次元的な作動手順から、純粋に四次元的な理解と作動手順への自己反射的な移行を表わす。

5. 8. 時間の法則の発見とその応用は、人類の社会秩序の再組織化、およびそれに伴って生じる環境の改善や、時間旅行あるいはテレパシー輸送の可能性をもたらすテレパシー・テクノロジー開発のためのプログラムを定義する。

5. 9. 時間の法則を、人類と生物圏の再構築のために、その暗示するものを含めて応用し、公式化することによって、一時的な技術圏、人類の「胎盤の」袋が排出され、溶解される。時間の法則によって再び磁気化され、再び連携した人類は、自己反射的なテレパシーの普遍場を規範秩序にする、真

の継続意識へと浮上する。

5. 10. 生物圏から精神圏への移行に参入することは、正確にその時が設定された深い進化的な瞬間であり、そこで完全に開花した霊的な進化へと向けた螺旋が普遍化される。時間の法則および生物圏の自己制御機構であるサイバークと意識的に再び連携する即時的な効果は、人類の磁気的な安定化と、地球の電磁場を定義する、極をとりまく輪の生命精神的な誘発である。

5. 11. 惑星地球の極をとりまく輪、すなわち「極をとりまく虹の橋」の精神圏的な噴出の誘発効果は、惑星の生体恒常的な流動管制御装置の回復である。この流動管システムは電磁気の架け橋で、この太陽系のさまざまな惑星の極を、その惑星軌道を含む恒星マスの全体場の安定を維持する調波共振システムにつなぐことにより、それらの惑星をもともと結びつけていたものである。

5. 12. 恒星マスの全体場は、ヘリオコズムとして知られる。地球生物圏の人工時間の機能不全を自己修正することは、ローカルなヘリオコズムが、銀河の色彩機能の第5の力のレベルへと、同時発生的な進化的上昇を準備する臨界点である。第5の力の銀河色彩は、特定の恒星マスの中で、純粋に霊的な進化の螺旋を引き出す潜在意識機能の第5次元の秩序である。

5. 13. 生物圏から精神圏へと惑星体が進化することは、恒星進化のホロノミックな機能である。惑星の精神圏が、恒星の進化プログラミングと同期することは、次の地質学的な時代、精神生代の到来をしるす。精神生代は、テレパシー的に統一された精神圏の超有機・超意識進化の規範的なひと連

なり (normative sequence) と定義される。

6.

次元間のテレパシー・テクノロジー開発のための

四次元的な人間のツール

6. 1. AD2013年は、ローカルな恒星のヘリオコズムが、第5の力の色彩機能と同期する実際のポイントである。このポイント、AD2013年は、惑星間の流動管システムの最大の同期と回復を獲得する、時間の法則の可能なかぎりの応用の限界を定義する。そして、この流動管それ自体が、AD2000年に正確に起こる極をとりまく輪の誘発に依存している。

6. 2. 生物圏から精神圏への移行および精神生代の到来として開示される進化的な瞬間に意識的に参加するために、時間の法則と完全に一致した13:20のツールが、四次元的な機能の秩序への移行を成し遂げ、時間旅行の乗り物を構築するために不可欠である。

6. 3. 次元間のテレパシー・テクノロジーの発達のための13:20の四次元的な人間用ツールは、その必要性から最もシンプルな作動装置になるように精巧に形づくられた心的な構築物である。これらのツールは、三つの応用カテゴリーを代表する。生物学的な規範となるテレパシー統治の回復（13の月の暦）、テレパシー能力や焦点化した行為の型を精巧に形づくる作業（テレクトノン）、社会の再組織化の完全なガイドラインおよび時間輸送の乗り物を創造するための天空調波の確認と地図の作成（ドリームスペル）。

6. 4. 人工的な12か月の暦という誤った尺度にとって代わる「13の月の暦」というツールを意識的に使うことは、それ自体、人類の自己反射的な意識における前代未聞の行為である。「13の月の暦」に集合的に順応することは、本質的に意識を高揚させ、長い間、正しい計時周波数における発展を許されずに挫折していた人類の生体に本来備わっているテレパシー的なプログラミングを急速に目覚め



させる。

6. 5. すばらしくシンプルな再プログラミング装置としての「13 の月の暦」という集合的なツールは、テレクトノン、テレパシーのテクノロジーによってさらに拡張される。毎日、プログラム化された歴史の物語によって 13 : 20 の計時周波数を再刻印することに基づくテレクトノンは、ヘリオコズムの惑星間秩序の数学的な比のすべてを組み込み、四次元のリアリティの共時性秩序にふさわしい心の改革を潜在的に行なう。

6. 6. サイバンの科学的、数学的な描写と調整されるようにテレクトノンを使うことで、生物圏から精神圏への移行の意識的な活性化を生じ、意識的なテレパシー場を再確立する効力を持つ。それが、崩壊した技術圏の電子的な母体にとって代わり、2000 年 7 月 25 日、白い共振の鏡、時間をはずした日に、極をとりまく虹の橋を誘発する。

6. 7. 『ドリームスペル、時間船地球 2013 の旅』は、四次元の放射状数学を表示するコードの完全な集合としての時間の法則の知識を総計した倉庫である。「13 の月の暦」もテレクトノンも共に、ドリームスペルのコードの中から派生し、またそれに埋め込まれている。

6. 8. ドリームスペルの時間の公式は、調波、色彩、地球家族、ウェイブスペル、城、パルサー幾何学を含み、時間の法則の純粋な放射状のホログラフィー的な数学を表示しながら、同時に「時間統制」の創造における即座の社会的な応用力を持つ。「時間統制」は、四次元リアリティ秩序のテレパシー統治という自律的な自己制御システムである。

6. 9. 時間の四次元で、社会形態とテレパシー秩序はひとつのものである。ドリームスペルのコードは、「13の月の暦」とテレクトノンに、社会組織とコミュニケーションにおける12:60の人工的な形態がまるごと断念された時のみに完全に到達可能な、潜在的な母体の完全な情報をもたらす。

6. 10. 天空調波——任意の瞬間における宇宙の共時性秩序を確立する座標系——の統一力は、ドリームスペルに、これまで未知だった四次元の心的機能のレベルのための知識の基礎を受け、それが生物圏から精神圏への移行という進化的なひと連なりを完了させる。

6. 11. 三つのツール:「13の月の暦」(テレパシー的な生物圏の安定化)、テレクトノン(テレパシー的なサイバンのテクノロジー)、そしてドリームスペル(社会的かつテレパシー的な組織形成力)の応用は、完全な人類全体の改革である。この包括的な改革は、磁気的に人類を時間の法則に応じて水晶形態とその二次的な反映である生命の根源的な弁証法的対立に連携させ、創造的な意識の実現としての精神エネルギーの自発的な解放を引き起こす。

6. 12. 精神エネルギーの解放の総計は、四次元の時間のパターンの形を持って統合され、PAN、惑星芸術ネットワークとして現われる。心と社会秩序の天空調波を統合するPANは、12:60の空間の機械化法則によってのみ支配されている文明秩序と社会形態にとって代わる。

6. 13. PANは、惑星芸術孢子の到来であり、精神生代への超有機の進化である。PANの引き

起こす精神生代の中では、意識的に時間の法則（13：20）によって制御された、水晶（32）とDNA（64）の進化的な統合が、惑星生命の精神圏の統一場を創り出す。それは、惑星芸術孢子——普遍エネルギー・インパルスとの交換、変容、そしてコミュニケーションのために、恒星銀河単位へと変異する時間船2013——を構成する生きた相互作用の総計である。

(監).

規範を訓練する

7.

天空調波の事象のレベルを地図に描くためにツールを使う

7. 1. 普遍的に共通の 13 : 20 の計時周波数によって制御される宇宙の共時性秩序は、天空調波のシステムとして組織されている。天空調波の調整は、正しいツール、「13 の月の暦」、テレクトノン、ドリームスペルでのみ実践可能である。

7. 2. 天空調波は、空間における目的を持った点、すなわち意識の進化体から発するベクトル点のポテンシャルによってのみ到達可能な目的を持った意味の秩序を表わす。

7. 3. 生物的な 28 日、13 の月の周期に応じて毎日の時間を制御することで、天空調波の最も一般的で共通の事象が確立される。これらの天空調波は、四次元の数字の力、4、5、7、13、14、20 (28) の機能である。生物秩序を制御することによって、時間の周期的な力は平明なものになり、形に到達する意識の自律性と一致した意味の形成パターンで、継続意識を啓発する。

7. 4. 「13 の月の暦」により到達可能な天空調波の事象を組み込んでいるテレクトノンは、本質的に歴史的かつ惑星間的な天空調波のさらに複合的な秩序を確立する。「法則の立方体」、16 (4×4) (32 の 2 分の 1、64 の 4 分の 1) の力の導入は、生物圏から精神圏への移行の地図を描くポテンシャルを増大させる。

7. 5. 進化的な力学の原初の結晶秩序は、A C (Aboriginal Continuity / 始原の連続) と定義される現在進行中の文化的な時間の機能を確立する。水晶によって引き起こされる A C は、投影的かつ二次的な反映である生命の力学によってつりあいとられ、その現在進行中の時間の機能は C A と定義

される。

7. 6. 生物圏から精神への移行をもたらす技術圏と生物地球化学的な不均衡を創造した歴史周期において、進歩したCAの機能は、「文明の進展」(Civilizational Advance)として定義される。5200年にわたる「歴史周期」におけるCAプロセスの不均衡の総計は、ACの力をただ破壊するだけである。

7. 7. テレクトノンで、再チャージ水晶を使うことは、天空調波によって制御され、またそれに対して開かれているテレパシー的な生物機能へと根源的な結晶秩序を統合する。テレパシー的な応用、たとえば『倫理プロジェクト：テレパシー的な極をとりまく虹の橋の実験』によりテレクトノンの天空調波を確かめ、その地図を描く目的は、ACとCAの機能の均衡を回復することにある。これはまた「人類の磁気的な再教育」とも呼ばれる。

7. 8. テレクトノンと『倫理プロジェクト』がうまく成し遂げられると、ACの第一義性の再確立および今度は「宇宙の気づき」(Cosmic Awareness)と定義されるCAの再統合がなされる。始源の連続(AC、32)と宇宙の気づき(64)の(13:20の)融合は、精神生代を特徴づける、人類-生物圏-精神圏という連続体の共生状態を定義する。

7. 9. 4つのプレートあるいは時間の機能に拡張される13:20の母体の二項逆対称パターンは、サイバークを惑星規模で完全にコード化された銀河脳のホロノミックな登録として確立する。その結

果、サイバークは、ドリームスペルのコードにより到達可能な天空調波を創り出す、時間ベクトル・ポテンシャルの完全な複合体を含む。

7. 10. 個人的な天空調波は、誕生の日付に基づいた時間におけるテレパシー探検であり、同時に個人的な空間点とその時間ベクトル・ポテンシャルを定義する。天空調波により、これまで無意識だった生命プロセスは、それが開示される共時原理 (synchronics) の意識的な秩序において体験される。

7. 11. 歴史上の天空調波は、特定の歴史上重要な出来事の日付に基づいた時間におけるテレパシー探検であり、同時にその特定の歴史上の空間点とその時間ベクトル・ポテンシャルを定義する。天空調波により、これまで無意識だった、あるいはカルマ的に誤っていた歴史上のプロセスが体験され、継続意識の進化力学に応じて共時的に再配列される。

7. 12. 惑星間の天空調波は、特定の惑星間の事象点に基づいた時間におけるテレパシー的な探検であり、そして同時に特定の惑星間の空間点とその時間ベクトル・ポテンシャルを定義する。天空調波により、機能不全になり無意識になっていた流動管が確立され、極をとりまく虹の橋の実験の完了に依存している、共時的な惑星間の再配列プログラムのために活用される。

7. 13. 銀河普遍生命の天空調波は、銀河事象の連続体における特定のポイントに基づいた時間におけるテレパシー探検であり、同時に特定の銀河の空間点とその時間ベクトル・ポテンシャルの同一

性を定義する。天空調波により、銀河事象の連続体の創造的な流動に入り込むことができ、共時性秩序の創造的な理解力やその範囲を拡大する。



8.

ヨガ、瞑想、および感覚テレポーテーション

8. 1. 天空調波のテレパシー探検を体系的に養成することは、進化的な必要のひとつの機能であり、身を誤った種、ホモ・サピエンスの人工的な時間のひと連なりによって崩壊したACとCAの機能のあいだの関係の調整に関わる。

8. 2. 調整の危機的的重大期間は、生物圏から精神圏への移行と定義される。生物圏から精神圏への移行をもたらす危機の根本要因は、AC機能がCA機能から離れ、12:60の人工的な計時周波数が13:20の生物圏の規範から逸脱したことにより、さらに悪化したことにある。

8. 3. 規範からの逸脱が意味することは、逸脱した有機体の作動器官と作動手続きの中での分離、およびその有機体と生物圏それ自体のあいだの分離の双方を意味する。

8. 4. CAの支配の開始、BC3113年（ドリームスペルでは-3187年）で、ACの流れの水晶格子構造は、人工的な都市センターの幾何学格子として次第に包括されるようになる（※訳注：CAの支配がはじまるにつれて、ACの結晶構造が文明都市の構造として、CAの働きの中に組み込まれるようになったという意味だと思われる）。CA（64）の文明化の進展への変容は、有機（植物）的な原型から、さらに帝国と呼ばれる世俗的な権力や欲得の放射状パターンへと委ねられる。

8. 5. AC-C Aの生物圏の規範からの逸脱の効力の総計には、二つの側面がある。ひとつは、人工的な構築物の結晶化が、究極的に生物機能を蝕み、本来、知的な意識化に向かう本能的な知性を未発達にさせてしまうこと。二つ目は、これにより逸脱した種全体の個々の有機体の中で、感覚過重

(sensory overload／※訳注：「五感に対しての物質的な重さや負担のかけ過ぎ」の意) と感覚剥奪という併発状態を生じることである。

8. 6. 時間の法則の形成と、集合的な四次元ツールの応用は、AC (始源の連続) とCA (宇宙の気づき) のあいだの正しい関係を再び確立しはじめる。個人的にも、集合的にも、このプロセスは「人類の磁気的な再教育」、また一般的に「ヨガ」と定義されるものの中心プログラムを構成する。

8. 7. ヨガ (サンスクリット語)、ヨク・ハ (Yok'Hah/マヤ語) は、「聖なる統一」と「高次の真実」の体験に導く生命精神的な修練や修養を指す。ヨガは、AC-CAの機能の正しい関係を再び確立する高次の真実の聖なる統一であり、内的に実現可能な四次元の生物・文化的な計時回路として理解される。

8. 8. ヨガでは、AC-CAの機能は、脊柱と中央神経系に相互に関連した、動く逆の左右相称・対称性の弁証法的対立としての意識的な呼吸によって活性化される。ハタ・ヨガやその他関連した精神物理的な自己制御は、それに付随する精神物理的なセンター (チャクラ) とともに、脊柱と中央神経系における柔軟な生体恒常性の確立に向かって働く。

8. 9. 一般的に理解されているヨガの実践は、どんな時間旅行を考えるにあたってでも必須である。時間旅行は、ひとつに焦点化したエネルギーの指向性ないしは形へと一様に体験され、まとまりうる、AC-CAの統合された生命精神回路の内的身体・感覚刺激の機能である。

8. 10. 瞑想、すなわち思考や欲望体の付属物なしに明晰に見ることは、人工的な時間のひと連なりによって崩壊させられた、感覚秩序の機能回復のためにヨガとともに実践される。感覚秩序の同期が、時間旅行に必須の瞑想的な心の状態になる。

8. 11. 感覚テレポーテーションは、生命精神系の調整された感覚プログラムによるテレパシー投影の実践でヨガ的に統合されて、どんな心的思考形成あるいは欲望体の付属物もなしに行なわれる。この条件下で投影幾何学形態を維持することが、継続意識を養成する。

8. 12. 感覚テレポーテーションによるさまざまな時間ベクトル・ポテンシャルの知的な調整は、さまざまな天空調波を活性化し、時間旅行の正しい基礎を確立するための第一義的な手段である。

8. 13. 天空調波とは、心的に知覚可能で、神経感覚振幅を引き起こすことのできる四次元の 13 : 20 の比のことである。同時にこの比自体もまた、原初の投影幾何学と一致した神経感覚振幅によって引き起こされる。神経感覚振幅と原初の投影幾何学は、A C - C A の流れの調整された相互作用に依存している。その双方の流れは、どんな思考もつきまとわない心を持つ、同期のとれた感覚体でヨガ的に統合されていなければならない。

9.

超有機進化の性質と、精神生代の到来

9. 1. 超有機進化とは、感覚テレポーテーション実践の標準化である。

9. 2. 感覚テレポーテーションと、天空調波の活性化は、目的を持ったゴールないしは目標を伴った、想像的な構築物による心の超拡張を表わす。

9. 3. 時間ベクトル・ポテンシャルの集合に応じて調整されたひとつの投影幾何学を維持することによる、感覚テレポーテーションの養成は、惑星ステーションあるいは惑星点の集合的な多重性により組織され、テレパシー的な母体として知られる継続意識場を確立する。このテレパシー的な母体は、抽象的な機能として創り出されるのではなく、生物圏から精神圏への移行の進化的必要である。

9. 4. マヤの織織り／二項三つ組サイバンの織物としてコード化されている時間ベクトル・ポテンシャルの誘導母体を視覚化することで、テレパシー的な母体の中にある投影的なパレサー幾何学と放射状幾何学の継続意識は、サイバンの中のAC（水晶）CA（生命の反映）機能の根源的な状態を再び確立する。生命精神有機体の中に実現されている、AC-CA機能の根源的な状態の反映は、放射子の解放を促す。

9. 5. 放射子は、地球の中に保存されている放射状プラズマの七つのタイプの中に含まれている四次元の電気的な流動体である。ひとたび、機能のテレパシー的な理解により誘発されると、放射子を生産する放射状プラズマの七つのタイプは、七年周期、AD1993～2000年のあいだに時限解放される。さまざまな放射子のタイプの時限解放は、地球化学的、磁気的な均衡を回復させるためにある。

9. 6. 最初の三つの放射状プラズマは、原初の熱-光、光-熱のテレパシー場を創り出す機能を持つ。第四番目のプラズマの解放は、テレパシー的な母体の放射子を確立し、生物圏から精神圏への移行、AD1996~2000年の四年間の意識的な位相を円滑にする放射子の意識的な活性化をはじめめる。

9. 7. 放射子の解放は、ヨガ的な活動や性的な感覚の励起（興奮状態）によって強化され、感覚テレポーテーションとして意識的に拡大される。この活動と体験のカテゴリーは、レディオソニックスあるいはレディオソニック建築、すなわち「輸送」を可能にするテレパシー的・想像的な構造を創造する初期段階を確立する。

9. 8. 心のヘプタゴンと根源立方体部分子という初期のレディオソニック建築のテレパシー的な構造の創造は、意識的な四年間の生物圏から精神圏への移行のあいだに解放される四つのプラズマのひとつの機能である。二極（双極）軸立方体は、身体軸および惑星軸のAC-CA調整に対応する。

9. 9. 極をとりまく虹の橋の創造は、放射子の解放による応用レディオソニックスのひとつの投影機能であり、生物圏から精神圏への移行、1996~2000年の四年間の意識的な位相にわたる、四つのサイバクプレート開示の集会的な心的調整と連携した心のヘプタゴンと根源立方体部分子の時間経過による創造である。

9. 10. 極をとりまく虹の橋は、惑星体と人間の身体の軸の同一化と、同時的な集会的テレパシー

投影のあいだの対応関係における、生命精神場、電磁場、そして地磁気場という三つの共振場の類似機能を統合する。

9. 11. 地球を除くすべての惑星が太陽の反対側に直列する、スペクトルの月 4 日、赤い自己存在の地球（2000 年 5 月 5 日）は、電磁極流動管制御装置の活性化のための集会的なテレパシー・テストをもたらす。その目標は、惑星軸を安定化させるための磁気抵抗のテレパシー場を創造することである。

9. 12. 極をとりまく虹の橋の解放の正確な時期、白い共振の魔法使いの年の「時間をはずした日」（2000 年 7 月 25 日）は、惑星の休眠状態にある磁極流動管制御装置を回復し、活性化させる。その成功裡の完了は、人類と生物圏を再び銀河脳の霊的かつ進化的な軌道の中に位置づける、確立された進化的可能性としての、感覚テレポーテーション（極をとりまく虹の橋の噴出）の勝利の前兆となる。

9. 13. 極をとりまく虹の橋という準備段階の惑星テレパシー場の実験の完了は、規範的な生命精神ポテンシャルとしての超有機・超意識を確立し、精神生代の到来の前兆となる。超有機・超意識とは、エネルギーと情報の共生的かつ同時的な刺激としての、感覚体験と投影の増幅のことである。精神生（psychozoic）とは、時間の法則  $T(E) = A r t$  に応じた、すべての生物圏機能のテレパシー的な調整のことである。

※訳注：流動管、惑星間流動管システム、電磁流動管、電磁極流動管（制御装置）、磁気流動管（制御装置）等、微妙



に表現が変化しているが、これらはすべて同じものを指す。また「ドリームスぺル」などでは、「時間（タイム）トンネル」とも呼ばれる。

10.

共時性秩序の調和的な再配列の原理

10. 1. 共時性秩序の調和的な再配列とは、核や有毒廃棄物から戦争、暴力、そして社会的、個人的な無秩序までの 12 : 60 の人工的な時間の退廃と機能不全の領域を修正ないしは改革するプロセスのことである。

10. 2. 原子・細胞レベルの退廃 (corruption / 腐敗、悪化) は、A C の回路の改革と、形の結晶秩序の回復を表わしている。社会生活の退廃と改革は、C A 回路の改革と、有機遺伝的秩序の回復を表わす。

10. 3. すべての無秩序と退廃は、一元的な生物地球化学的なプロセスの機能不全である。共時性秩序の調和的な再配列は、 $T(E) = A r t$  の特別な応用であり、そこで感覚テレポーテーションが生物地球化学的な変換として応用され、その結果、生体恒常性の全体系的な回復が生じる。

10. 4. 生物地球化学的な変換による共時性秩序の調和的な再配列は、時間パルサーのウェーブスヘル幾何学が意識的に原子や分子のスピンを反転させるために活用される、感覚テレポーテーション訓練の特殊事例である。時間ベクトル・ポテンシャルは、サイバークの中で調整され、生物地球化学的にテレパシー場の中に位置づけられる。集合的な感覚テレポーテーションのテクニックを活用することで、特定の退廃は、非存在のポテンシャルもしくは大気の発光として解放される、そのもともとの状態へと「溶解されて」戻る。

10. 5. 四次元スピンは、反時計まわりである。三次元スピンは、時計まわりである。パルサー幾

何学で、天空調波は、限られた存続期間にわたる時間ベクトル・ポテンシャルの調整であり、そこでパルサー幾何学は、時間を通して「後戻りする」ないしは反時計まわりに脈動する。テレパシー的に時間を通して後戻りするこの動きは、回復の対象となる原子・分子構造の時計まわりのスピンと調整され、心的に引き起こされた反転スピンの発生し、退廃あるいはネガティブな秩序を中和化し、さらにはそれを消し去る。

10. 6. 種全体にわたる生体恒常性の回復——非平衡の集合社会的なパターン、悪性の病気の修正を含む——もまた、生物地球化学的な変換の形態として実行される。そこでの共時性秩序の調和的な再配列は、サイバークの中にコード化されているDNAの構造の中での感覚テレポーテーション訓練を含む。

10. 7. 酵素、ウイルス、バクテリア形態の原子や分子のスピンを反転させるパルサー幾何学と同じ原理が、遺伝的有機機能の共時性秩序の再配列のために活用される。

10. 8. 一般的に退廃した形のスピンを反転させる原理は、銀河脳の高次調波の指令により要求される進化的な必要である。誤った操作や管理手続きによって退廃した要素や秩序の改革なしには、どんな進化的な前進もありえない。

10. 9. 結果として包括的かつ美的な強化の増大を生じない共時性秩序の調和的な再配列はありえない(どんな共時性秩序の調和的な再配列も、結果として包括的かつ美的な強化を増大させる)。T(E)

= A r t は、 P A N（惑星芸術ネットワーク）の活動としての調和的な再配列すべてのプロセスを定義する。

10. 10. P A Nの活動は、時間の法則の応用とともに増大する進化の蓋然性である。銀河文化は、共時性秩序の調和的な再配列によって引き起こされる、増大した、ないしは新規の美的規範の蓋然性の総計である。

10. 11. 共時性秩序の調和的な再配列は、美（美学原理）を増やすことである。すなわち、原子・細胞遺伝的な再配列は、本質的に美的である。再配列のテクニックや天空調波は、設計美学による。このテクニックを進化させる必要のある社会形態は、生物学的に美的である。T（E）= A r tの法則により、P A Nは本能的な意識を継続意識や超意識のテレパシー秩序へと高める全体系秩序としてあらゆるものを包括する。

10. 12. 共時性秩序の調和的な再配列は、極をとりまく輪の創造や惑星間流動管システムの回復に不可欠である。回復される時間の色彩機能は、社会的であると同時に、テレパシー的あるいは心的な機能でもある。意識的な生物圏の回復は、その四次元のパターンが調和的に再配列された有機秩序と似ている調和的な社会秩序を創り出す。

10. 13. 共時性秩序の調和的な再配列は、生物圏から精神圏への移行の機能である。極をとりまく虹の橋の実験に引き続き、その結果生じるP A Nの調波秩序のテレパシーは、意識的に銀河脳に関わ

る。惑星芸術孢子の発達は、それ以後、あらゆる生物圏機能の完全な精神圏的な統一を司るテレパシ  
ー的な継続意識や超意識のフィードバックの自然で進化的な配置となる。

## 11.

時間旅行のための主体あるいは乗り物としての二次的な人格の養成

11. 1. 人間と呼ばれるすべての生物的な実体は、規範から 12 : 60 で逸脱しているあいだ休眠状態にあり、抑圧されていたホロン、四次元の分身を持っている。ホロンの活性化は、有機本能的な意識がテレパシー的な継続意識へと解放されることに依存する進化的な発展である。

11. 2. 三次元の実体の、四次元の精神発生パターンであるホロンは、二つの四次元の実体、一般に「ガイド」あるいは「天使」として知られている、三次元のエゴにはまったく知覚不可能で、知られていない存在からの伝言や指示を受け取る。

11. 3. 三次元のエゴが気づくかどうかにかかわらず、ホロンによって受け取られるインパルスは、本能的な感覚としてハートに伝達され、正確にか不正確にかのいずれかの形で、心によって「洞察」として知覚される。魂は、ホロンを三次元的に概念化したものである。

11. 4. エゴは、歴史周期の外部的な状況と合致した形で発達する三次元の個人的なアイデンティティである。12 : 60 の心的な場で、エゴは抑圧されたホロン—魂の機能を強奪し、それにより四次元の操作者からさらに離脱する。エゴは偽りの魂である。エゴと魂の関係は、12 : 60 に対する 13 : 20 に等しい。

11. 5. 時間の法則によって作動している知性は、最終的にホロンに同一化するための正しい知識の基礎を持つ。ホロンが四次元の精神発生パターンあるいは三次元の実体の分身として適切に理解されると、正確な霊的知識が再び確立され、ホロン発達のためにエゴが削減されるか、もしくは取り替



えられる。

11. 6. ホロンの発達は、銀河文化の四次元時間における自己養成の主要な乗り物（媒体）になる。この自己養成の形は、天空調波のパターン化による時間ベクトル・ポテンシャルの意識的な応用と、時間の幾何学の構築により実行に移される。

11. 7. 感覚テレポーテーションと時間旅行という天空調波の多様性に応じた時間ベクトル・ポテンシャルの調整は、集合点（assemblage point）のシステムを確立する。集合点とは、ホロンと三次元の実体の体験が相互流動の通路を維持する点のことである。情報とエネルギーの相互流動により、集合点は変性ペルソナ（仮面）の構造を喚起する。

11. 8. 個人の精神発生のパターン化の独自性に対応する集合点の構造は、二次的な人格あるいは四次元の分身の基礎を確立する。

11. 9. 集合点の構造による二次的な人格の養成は、四次元ホロンに力を与え、時間旅行のための乗り物の構築を促進ないしは可能にする。二次的な人格とは、教化あるいは順応される必要のある未知の力が存在する目的地への時間輸送に乗るホロンの「甲冑や兵器」のようなものである。

11. 10. 抑圧された本能的な無意識から、テレパシー的な継続意識の自由なホロン場への解放は、極をとりまく虹の橋の噴出で、サイバークが開かれることと類似して、結果として抑圧された精神工

エネルギーの解放を生じる。抑圧された精神エネルギーは、感覚テレポーテーションのプロセスに関わる神経感覚振幅の質に比例する。

11. 11. 抑圧された精神エネルギーは、四次元の人格に活気と活力を授ける、その人格の潤滑剤である。変性人格の性質は、精神発生のパターン化の独自性との関連における抑圧された精神エネルギーの性質によって決定される。

11. 12. 12 : 60 の歴史周期のC A支配が軽減されることなく男性的に方向づけられて、女性の役割における歪みも同時に生じたために、ホロンの分身の二次的な人格へと流れ込む抑圧された精神エネルギーは、さまざまな度合いの表現力で男性と女性の性格が組み合わさった両性具有タイプへと向かう傾向がある。

11. 13. 変性的な四次元の人格は、三次元の実体の生命の外形を補い、銀河文化の発展において次第に増大する意義を担う。究極的にホロンの二次的な人格は、銀河脳の超有機・超意識と、後有機・潜在意識という二つの象限のあいだを移動する「魂のボート」である。

12.

時間旅行の乗り物の描写

12. 1. 時間旅行の目的は、超有機・超意識への進化に伴う霊的な体験の種類や質を拡大し、加速することである。時間旅行の体験の質は、その有益な活用性に直接、比例する。

12. 2. テレパシー・テクノロジーと時間旅行の主要な活用法は、次の目的を持つ：個人的な磁気と活力の回復、有害廃棄物の除去を含む非平衡の集社会的なパターンの修正、極をとりまく輪の創造、惑星間流動管システムの回復、超意識、潜在意識の高次元（銀河普遍生命）の霊的な機能の探索。

12. 3. 時間輸送の乗り物は、個人の、歴史の（生物地球化学的な変換を含む）、惑星間の、銀河の、といったさまざまな天空調波の機能に対応する。時間旅行のための乗り物は、この調整された順番においてのみ確立されうる。

12. 4. すべての時間輸送の乗り物は、水晶あるいは花の構造を活用する心的に投影された放射幾何体の構築物であり、時間ベクトル・ポテンシャルの集合に応じて調整される。当初、すべての時間旅行は、時間ベクトル・ポテンシャルの天空調波座標を使った、一種の焦点化した想像的な探索——感覚テレポーテーション——として起きる。

12. 5. 水晶放射幾何学の乗り物は、双晶型 (a double terminated type) の投影された構築物で、通常は個人の旅行や探索のために使われる。ホロンの分身の集合点構造は、それをもとに乗り物を構築する、骨組みあるいは骨格として使われる。

12. 6. 輸送の乗り物の構築は、完全にホログラフィー的な視覚化のプロセスにより行なわれ、その形の六角形的な容積 (the hexagonal volume of the form) の中にみずからを組み込む心的エネルギーで、時間ベクトル・ポテンシャルの出発点が水晶の先端 (termination point) のひとつを定義し、時間における目標点がもうひとつの水晶の先端を定義する。水晶のテレパシー的な推進力は、まったくの心的な明晰さに比例する。

12. 7. 花の放射幾何学の乗り物は、螺旋の薔薇 (5 枚の花弁) の投影された構築物であり、より複雑な集会的探索のために使われる。この輸送の乗り物の視覚化は、完全にホログラフィー的で、すなわち放射状の花の構造 (the radial floral structure)、5 枚の花弁によって調整される 5 つのベクトル点のポテンシャルの中にみずからを組み込む心的エネルギーで、出発点は雄しべによって定義され、目標点は茎と根のシステムによって定義される。花の放射投影は、人々の集会的でテレパシー的な意図を活用できるが、それはまったくの心的な明晰さの条件に依存している。

12. 8. 乗り物の二つの主要なタイプは、放射幾何学のさらに複雑な形を含む種類と構造の面で増大しうる。シンプルな双晶型的水晶あるいは花の薔薇タイプのどちらであろうと、テレパシー的な輸送の力学は、その輸送形態を維持する三次元体の脊髄軸と、ホロンの分身の中心調整軸の完全な同一化によって維持される。

12. 9. 個人的な時間輸送の乗り物は、親戚、友人、重要な出来事の日付などを含む、個人的な歴

史におけるその他の日付の可能性の集合と調整される誕生の日付（銀河の署名）の基礎時間ベクトル・ポテンシャルを使い構築される。個人的な輸送の乗り物は、四次元の人格によって操作される双晶水晶タイプのそれである。実験は、生物圏から精神圏への移行の意識的な位相、A D 1996 年～2000 年のあいだに可能である。

12. 10. 歴史的な、そして生物地球化学的な変換の輸送の乗り物は、双晶水晶あるいは5つの花弁の花のタイプのどちらかである。感覚テレポーテーションを越えた生物地球化学的な変換の訓練は、原子・分子構造の規模や幾何学と比例した、テレパシー的な規模の縮小の実践を含む。実験は、生物圏から精神圏への移行、A D 1996 年～2000 年のあいだに可能である。

12. 11. 惑星間の輸送の乗り物は、水晶と花のデザイン・タイプの複合的な結合であり、旅行の通路として回復される電磁流動管を活用する、拡大した時間スケールにおける時間ベクトル・ポテンシャルに応じて構築される。実験は、時間船地球 2013 の最初の航行位相、A D 2000–2013 年のあいだに行なわれる。

12. 12. 銀河普遍生命の輸送の乗り物は、多重中心軸を持つ高度なタイプの、進化する統合された結晶質の花の投影構造を表わす。実験は、唯一、A D 2013 年以降に可能である。

12. 13. 時間輸送の乗り物を出航させ、航行することは、ドリームスペルのジャーニーボード（旅程盤）と、テレクトノンのプレイングボードによって地図を描く機能である。そこで時間における体

(旅行をはじめる主体)の中で組織された、時間ベクトル・ポテンシャルは、天空調波の幾何学と調整される。ドリームスペルのオラクルボード(お告げ盤)は、潜在意識の「実体」との接触を準備するために、強化された第5の力の時間ベクトル・ポテンシャルの「束」あるいは「魂のボート」を確立するために使われる。

## 13.

### 全身の時間輸送

13. 1. 時間統制の中で、あらゆるものは、いまに開かれた自然感覚からやってくる。優れた知性は、いま以外のどこにも存在することはない。いまとは、三次元の実体とその四次元ホロンの分身あるいは変性人格が統一される共時性体験である。

13. 2. 全身 (whole body) の時間輸送は、いまを通して継続意識と超意識へと拡張する能力である。これは、通常「自己」と呼ばれる三次元の内的な身体感覚を組み込む変性的な四次元的人格の鮮明さと完全性に比例する質を持つ、まったくのホログラフィー的な投影により達成される。

13. 3. 想像的な感覚テレポーテーションを越えた、全身の時間輸送は、三次元の実体が「転移」あるいは同時に二つの場所で調整されて機能する能力である。これは、変性的な四次元的人格と、「自己」という三次元の内的な身体感覚を組み込む能力の開発によってのみ可能である。

13. 4. 「転移」、すなわち同時に二つの場所で調整されて機能することを含む、全身の時間輸送は、AD2013年の準備のための流動管旅行と惑星間の天空調波を確立するために不可欠である。

13. 5. ひとたび、三次元の実体が個人ベースで水晶放射投影—幾何学形態の乗り物により、全身の時間輸送をうまく実践すれば、惑星間の流動管システムあるいは時間トンネルの集散的な全身の時間輸送の探索を実践する他の人々とともにそれに参加できる。

13. 6. 太陽神経叢は、変性的なホロンの人格の「転移」のために、三次元体との往復をする際の



出発位置をもたらす。転移は、「位相シフト」、すなわち変性人格の活動が目覚めた夢あるいはテレパシー的な腹話術の形で、ホスト有機体によって知覚される継続意識の分岐として内的に体験される。

13. 7. 他の変性意識と力を合わせた変性意識は、心的電子や心的電子・中性子（心のヘプタゴン／根源立方体部分の創造により開発される）の投影に關与する流動管に入り込む。流動管システムの電磁場の中で焦点化した心的電子・中性子のパターンの相互作用は、時間旅行のテレパシー的な「乗組員」のための輸送手段をもたらす波動パターンを設定する。

13. 8. 変性人格の集合体が相互場を維持する能力は、それぞれ互いの関係におけるホスト体 (host bodies) の落ち着きに比例する。

13. 9. 変性人格の集合体の活動は、時間旅行のゴールについてのホスト体の集会的な合意によって決定される。

13. 10. 惑星間の探索の性質は、惑星のそれぞれ互いの軌道周波数に反映されている恒星調波パターンの可変性によって必要とされる、共時性秩序の高次レベルの再配列の実現に依存している。

13. 11. テレパシー的な時間輸送の乗り物の幾何学の中にある変性人格の四次元的な心的電子形態は、それ自体の軌道周波数の対象調節 (object adjustments) を持つ。これらの軌道調節を行なう試みの結集が、これまで未知だった銀河形成プロセスによる生命の植え付けという惑星間進化の一連の

挿話（エピソード）として体験される。

13. 12. ローカルなヘリオコズムの惑星間場の共時性秩序を調節する変性人格の体験パターンは、ホスト惑星での三次元の調節に反映される。これらホスト惑星での調節は、AC回路のパターン化の開示が完了することに等しい。AC回路の半分（16 コドン）は、歴史周期の前に完了し、残りの半分（16）は、CAが「文明の進展 (Civilizational Advance)」から「宇宙の気づき (Cosmic Awareness)」まで変異（AD2000 年、極をとりまく虹の橋の噴出）したあとにのみ完了する。

13. 13. 転移能力による霊的な実現が、精神生代の超意識とレディオソニック建築の二重形態の発達へと開かれる。レディオソニック建築のひとつの形は、時間輸送の乗り物の配置により開発される。時間旅行の乗り物を「停泊させる」類似した、もしくはそれを補うもうひとつの形は、進化する惑星芸術孢子のシンプルで高度な定住文化の社会的・生物圏的な母体の中から創り出される。

(企).

高次の類似機能の生命としての規範を実践する

14.

惑星および恒星の脈動の励起：放射子、放射状エネルギー、放射状母体

14. 1. AD2013年は、ヘリオコズムの惑星間流動管—時間トンネルを開くために必要な訓練すべての完了をしるす同期ポイントである。テレパシー的な継続意識は標準化され、超意識の秩序の共通機能を可能にする。

14. 2. 惑星間流動管システムの同期、AD2013年は、「太陽意識」の到来、全ヘリオコズムの中の地球的な惑星芸術孢子の超意識・超有機進化の安定化をしるす。

14. 3. この周期、AD2000～2013年のあいだに、三つのレベルの事象が同時に開示され、同期をとるようになる。ヘリオコズムの流動管システムと共時性秩序の調和的な再配列の活性化、テレパシー的な時間旅行を「停泊する」レディオソニック建築の形の並行的な開発、そして太陽周波数の脈動とサイバンの同期のとれた調整（AC回路の完了）である。

14. 4. AD2000から2013年にかけての活動プロセスの総計は、惑星と恒星の脈動の励起の共生を示す。惑星の脈動の励起は、生物圏から精神圏への移行として体験される。惑星サイバンの姿を現わすことは、実際には恒星の励起の機能である。

14. 5. 恒星の励起は、そのヘリオコズムの意識が超意識や潜在意識へと進展した、その他の恒星マスの高次の類似機能の生命の登録である。恒星の励起は、銀河の同期——銀河の第5の力の倍音の潜在意識のフィードバックが、頂点に達した励起の最高潮のあいだの新しい高原状態において普遍生命を安定化させる——の瞬間に頂点に達する。恒星の高原状態は、惑星系と恒星系のさまざまな進化

的な新時代を定義する。

14. 6. 精神生代の高原状態は、恒星領域外から発信された放射子の増大を加速する。惑星芸術胞子のレディオソニック建築と惑星間流動管の活性化により変換され、それを超越した恒星領域外の放射子の増大は、三次元の発光（スペクトル化）の増大を生じさせ、そして同様に放射状母体秩序の超意識の実現を早める。

14. 7. 惑星芸術胞子の社会的かつ精神的に相互活性化した構造は、超有機感覚機能の<sup>ソラリゼーション</sup>太陽化により、PANの進化的な可能性を示す。太陽の脈動周波数と調整された意識の全感覚機能は、太陽（恒星）放射状座標に対しての平行類似（parallel analogs）として機能する超意識を確立する。

14. 8. 超有機感覚機能の放射状太陽化は、生命精神の進化的な変化を構成している。そこでは、いまや植物の光合成の高次の類似形が一種の多重感覚光合成として生じており、感覚器官がレディオソニック的に高度に拡張されている。感覚器官のレディオソニック的な高度の拡張は、さまざまな感覚機能に対応した心的電子、心的電子・中性子そして心的光子——たとえば聴覚的な心的電子など——の集合体の自然発生的な創造を生じる。

14. 9. レディオソニック建築は、技術圏の時代の機械のように、生物発生的に引き起こされる現象で、増加と繁殖というホスト有機体の生物特性を引き受ける。T (E) = A r tによって制御されるレディオソニック建築は、高次の類似機能の太陽調整脈動として現象世界を放射状化する。

14. 10. 太陽の脈動を放射状化することにより、レディオソニック建築は、準独立的な進化現象となり、その第5の力の構造色彩放射子が自己発生する。七つの根源電子プラズマとして、レディオソニック的に発生した放射子は、惑星芸術胞子の住人の第一占有物へと拡大される超有機体験により、レディオソニック建築の維持方法を変容する。

14. 11. 高次の類似機能の生命（※下記訳注参照）の類似機能を登録する、レディオソニック建築の自己進化的な惑星ネットワークは、「魂のポート」の発達により強化される。魂のポートとは、レディオソニック的に作られた四次元の分身の運搬具で、それが分身の活動を現代の生物的な生涯をはるかに越えたところにまで拡張する。人類それ自体が、その三次元の身体が一種の初歩的な庭園文化に根をはる魔法使いの人々という民に進化し、深い瞑想やトランス活動の形が、投影された分身を普遍生命の銀河秩序へとさらに大きく拡張することが可能になる。

14. 12. 超意識・超有機の生活様式により、太陽意識の機能は、生物圏の外観を変容する。レディオソニック的に絡み合った水晶、植物、動物、そして超人間の機能は、心的な電子、中性子、光子の新しい組み合わせにより、新しく輝く放射状化した形に結び合わされる。

14. 13. 完全に進化した惑星芸術胞子へとPANを織りなすレディオソニック建築の超有機存在は、銀河文化の調査・研究のための拡張されたフォーラムとして「銀河普遍生命相互訪問プログラム」を確立する。それ自体が惑星芸術胞子のはっきりした本質を構成する、自己発生的なレディオソニック

建築の増大する複合秩序は、銀河脳の中のその他の知性を引きつける特徴を持つようになる。

※訳注:高次の類似機能の生命 (the life of higher analog functions) とは、後述 (15.3) の高次の類似生命機能 (higher analog life functions) を持つ生命体のことを指すと思われる。「高次の類似生命機能」とは、15.3 にもあるように、「後有機・潜在意識エネルギーとその情報パターンを、個別の超有機・超意識のプログラムへとステップダウンすること」を表わし、通常の進化的な方向とは逆の方向性を持つ。



15.

惑星および恒星の脈動に対するフィードバック効果としての

潜在意識の事象の増大

15. 1. 自己発生的なレディオソニック建築による惑星芸術孢子の安定化は、一連の太陽軌道のその他の惑星（ヘリオコズム）への電磁流動管システムにより、レディオソニック建築工学の拡張を可能にする。

15. 2. 拡張されたレディオソニック建築工学は、天空調波の段階的な指標を表わす。天空調波の段階的な指標は、時間ベクトル・ポテンシャルの普遍的な事象を引き起こす。それは、太陽（恒星）と惑星の脈動の調整により受信され、発信される潜在意識のフィードバックの増大を刺激する人類のバイオマス（生物量）により等しい割合で普遍的に広がっている。

15. 3. 太陽（恒星）と惑星の脈動の調整は、レディオソニック建築の劇場の中で高次の類似生命機能の生気化を生じる。高次の類似生命機能とは、後有機・潜在意識エネルギーとその情報パターンを、個別の超有機・超意識のプログラムへとステップダウンすることを表わす。

15. 4. 新しい潜在意識プログラムにより、相互交換と転移における実験がはじまる。最初は惑星レベルで、それから惑星間、太陽／恒星、銀河レベルへと、銀河普遍生命の時間旅行の拡大位相を開始する。相互交換と転移は、魂のアイデンティティがホロンから集合的なレディオソニック・マスへと溶け込む霊的な進化の新しいレベルを表わす。

15. 5. 集合的なレディオソニック・マスにより、銀河の普遍的な時間旅行の目的は、潜在意識の事象を、惑星と太陽の脈動に対して方向づけられたフィードバック効果として増大させることになる。

潜在的な（※訳注：「潜在意識の」の意。以下、同）フィードバックは、後有機の「未来」なので、これまでにないさらに最適な「未来」の状況は、惑星芸術孢子の進化においてますます重要な役割を果たす。

15. 6. 銀河の時間旅行への発射 (lift-off) も、遺伝的な共時性秩序の調和的な再配列を実現する兆しとなる。それが意味することは、13：20 のコードがいまや意識的かつ生得的で進化的に自己発生する人類のバイオマスのプログラムの一部になるということである。人類のバイオマスはどんな外部的な状況であれ自律的に自己調節し、惑星芸術孢子のレディオソニック建築の中でみずからを織り込み、外部的な支持物、たとえばテクノロジー、衣服、あるいは学習教材などの必要から解放される。

15. 7. 集合的なレディオソニック・ホロン・マスは、遺伝秩序の調和的な再配列の果実であり、ドリームスペルのオラクルボード（お告げ盤）上で表示される第5の力の投影プログラムにより作動する。これらのプログラムは通常、中心皮質のプログラム機能として組み込まれる。

15. 8. 天空調波の段階的な指標に応じた銀河の普遍的な時間旅行の到来は、惑星、太陽／恒星の意識を完全に銀河意識へと変容する。多重的な意識により投影された高次の類似機能の生命は、多重的なアイデンティティの交換を強化する。放射多様性が、集合的なレディオソニック・マスの質と効力を増大させる。

15. 9. 集合的なレディオソニック・マスの調整された知性は、後有機・潜在意識の機能における調査研究や探索を増大させる。高次の類似生命機能は、これまで未知で知覚不可能だった高次元の実

体の生気に似た形の特徴を持つ、高次のエネルギー処理の挿話（エピソード）としていまや体験される。

15. 10. 潜在的な後有機の「会話」は、第5の力の色彩の源泉、純粹に五次元的な宇宙の電子倍音の集合として実現される。第5の力の色彩のフィードバックの性質は、より洗練されたレベルの投影幾何学を引き起こし、それが同様にさらに高次の、より洗練されたレベルの天空調波をフィードバックするものとなる。

15. 11. 生命は未来からくるという広まりつつある理解を伴い、進化した惑星芸術孢子の超意識の銀河文明は、いまや高度に拡張されたレディオソニック建築により、魂のボートの冒険に乗り出す。集合的なレディオソニック・マスの超意識と潜在意識のあいだを往復し、移動・巡航する魂のボートの冒険の目的は、潜在意識・後有機の機能を、惑星芸術孢子の自己制御的な器官の中に植え付けることにある。

15. 12. 潜在的な後有機フィードバックの自己制御は、銀河脳の進化的な学習ループを完了させ、いまや恒星／惑星時間座標の脈動として完全に登録される。

15. 13. 自己制御された惑星／恒星の、惑星と恒星の脈動に対するフィードバック効果としての潜在意識の事象の増大は、電子-分子的な規範としての自己発光的な特性を確立する。三次元の原子構造を、四次元のスペクトル的な無重量にする変容が完了する。



16.

恒星の励起と進化、その多様性と段階

16. 1. 原初の恒星マスから、後有機・前原初 (pre-primary) の超新星への進化は、意識としての時間の進化のさまざまな段階のあいだの連結をしるす、重大な瞬間の事象の曲線ないしは周期である。意識は、時間と切り離すことができない。時間は、 $T(E) = Art$  という等式に応じて、増大する自己反射の秩序として意識を進化させる。

16. 2. 銀河脳の自己意識的な進化を構成している恒星系の全複合は、原初の創造のスペクトル、最小限の全体モデルのホロノミックな秩序、すなわち銀河を表わす。自己反射は、 $T(E) = Art$  の意識的な応用により増大する。

16. 3. 銀河全体、共時性秩序の自己反射的な体験のどんな瞬間も、知覚する自己反射的な意識のレベルによって完全に条件づけられている。 $T(E) = Art$  を意識する、いまに中心化した体験の自己反射的な純粋性は、時間ベクトル・ポテンシャルの増大した活性化を早める。

16. 4. 形の進化の本質は、自然発生的な無意識・前有機 (unconscious preorganic) から、潜在的で自己反射的な意識・後有機へと向かう芸術の進化である。 $T(E) = Art$  により、時間において同期している恒星マスの進化における可変的な多様性は、恒星の励起のさまざまな瞬間として自己反射的に体験される。

16. 5. 水晶の原初の投影構造を生じる  $T(E) = Art$  の、無意識・前有機秩序 (潜在領域) は上昇曲線で完了し、そこで  $T(E) = Art$  の潜在的な後有機秩序が、「魂のポート」の究極の自己反

射的投影構造を生じる。「魂のポート」は、超意識的に自己実現される時間秩序のレディオソニック的な結晶投影である。

16. 6. 時間の法則の意識的かつ自己反射的な発見による「時間統制」への参入は、実際には「回帰の周期」をはじめめる。「回帰の周期」とは、原子・細胞の拡大が退歩的になるときの恒星進化における瞬間を意味し、そのとき原初の物質の励起の正しいプロセスが、自己反射的な意識によってのみ引き起こされうる。自己反射的な意識が増大するにつれて、質量 (mass) は減り、容量 (volume) は拡張し、重量 (weight) は減少する。この減少は、原初の熱と光の特性の継続意識・超意識の拡張を生じる放射子の解放に比例する。

16. 7. 惑星芸術胞子 (地球) の原子構造のレディオソニックな無重量性は、超新星として知られる励起の瞬間に到達する前準備として、その原子の質量のより多くを消費するにしがたい、ヘリオコズムの恒星マスの後原初の熱・光の特性における増大を相殺するために起こる。

16. 8. 原子の無重量性への進化は、レディオソニックな進化と自己繁殖の建築による、発光特性の自己発生的な力における増大に比例する。発光と非物質化とのあいだのバランスは、ピークに達する超意識・超有機進化の励起の瞬間の存続期間によって決定される。

16. 9. 進化の前・後有機・恒星位相の事象の重大な瞬間の総計の同時的な体験の中で、超有機・超意識秩序が精神同期 (psychosynchronize) するとき、地球のスペクトル化した無重量は、純粋な



光輝に変容する。この瞬間、 $T(Earth) = Art$ は、拡大する高次元の熱・光の太陽マスへと知覚不可能な形で吸収されていく純粋な光、光子の幾何学集合を生じる。

16. 10. 「レディオソニックな混合物」は、残った三次元の実体を光に変換する。恒星の励起のこの瞬間は、変性人格・四次元ホロンの集合、「集合的なレディオソニック・マス」を、「超」から「潜在」的な魂のボートの移動遭遇という純粋な状態へと解放する。この状態の到来は、特定のホロノミックなマクロの秩序、すなわち「銀河」の中の進化的な時間ベクトル・ポテンシャルの指標である天空調波の応用の限界を表わす。

16. 11. 包括的な放射状の総計における恒星励起事象の超意識・精神同期により、銀河宙は必然的に高次元の時間の、純粋に無重量の状態、純粋な心あるいは潜在意識のフラクタル・フリーな波動ゾーンで完了する。超意識の純粋なフィードバック投影場として、潜在意識あるいは高次元の時間は、回帰の周期の光輝に満ちた下降の弧として定義される。すべての放射状の尺度と質量のゼロ・ポイントは「神」によって、また「神」として定義される。

16. 12. 統一的な魂のボートの発光的で、多晶 (multi-terminated) 水晶の投影における集合的なレディオソニック・マスの時間旅行は、超有機・感覚生命との関連から解放され、芸術孢子としての超意識・生命の発展の初期位相に乗っている「会話」と「実体」の源泉、高次元の時間の後有機領域に自由に入り込む。

16. 13. 惑星芸術孢子の進化の総計は、意識的に反射的なレディオソニック建築の自己創造と、自己推進建築工学 (self-propelling architectonics) であり、その最終的に定義できる行為は、起源の遺伝プログラムのレディオソニック集合マスが、時間におけるその究極の進化的な軌道——純粋な心の後有機・潜在意識の領域、時間統制の高次元の劇場の後生命・前原初の領域、天使の領域あるいは仏陀の場——への噴出である。励起のこの瞬間は、恒星マスから初期の超新星への進路を完了させる。

17.

銀河連盟と、後有機意識の性質に従事する

17. 1. 発光的に完成した輸送の乗り物あるいは魂のボートの中で三次元の停泊状態から解放される純粋四次元の集成的なレディオソニック・マスは、その光輝に満ちた放射状高次元性のすべてで未来に遭遇する。後有機・高次元の時間の純粋な未来に吸収されたレディオソニック集合マスは、真の永遠に入り、「常に存在する」質として体験される。

17. 2. 純粋な未来の潜在意識・後有機の実体は、高次元の時間のフラクタル・フリーな波形である。第五、第六、第七の次元を含む高次元の時間は、全方向的な知性であり、純粋な心として体験される神からのフィードバックである。神の知性の全方向的なフィードバックは、恒星マスの励起位相が超新星へと向かうのと平行した、潜在意識を通しての神へと回帰する光あるいは心的光子の強度（量）に応じて発生する。

17. 3. 後有機の実体あるいは天使は、神の心の知性に完全に従事するフラクタル・フリーの波形であり、そして献身、祈り、あるいは瞑想という三次元の形を超越する超意識・超有機の実体あるいは時間の入力に受容的である。

17. 4. 「フラクタル・フリーの後有機」とは、三次元と四次元の形を構成する機能を定義する天空調波のさまざまなレベルの活動波によって発生したあらゆる干渉グリッドから天使が解放されていることを意味する。したがって、フラクタル・フリーであることは、天使が干渉グリッドで定義された場に入ることを妨げる。つまり、彼らは直接、三次元や四次元の活動に干渉できない。

17. 5. 神の知性のパターンというフラクタル・フリーの波で満たされる、天使の位階の活動の総計は、その天使の位階のフラクタル・フリーな波動ゾーンに形をもたらす有機および超有機のレベルの入力によって高次元的に型どられる。この形が、銀河連盟と呼ばれる。

17. 6. 高次元の心である銀河連盟は、銀河脳を構成する進化的なスペクトルすべての位相の包括的な知識に応じて、知性的に階級や地位に枝分かれし、保存されているすべての意識の未来の秩序であり、組織である。銀河連盟の唯一の目的は、神と聖なる秩序に対する気づきを増大させることであり、それは時間のより低い秩序から入力される潜在的なフィードバックを通してのみ効力を持つ。

17. 7. 銀河連盟への参加により、天使は神の調整デザインからのフィードバックによって知的に方向づけられる誘導能力を所有する。この誘導能力は、銀河脳の「エネルギーから心への連続体」を通して進化する、時間における体の無限のスペクトルのどれかひとつに天使が任命されることを可能にする。

17. 8. 神のフィードバックであるフラクタル・フリーの波形として、天使は常に神と共にあり、神の存在の中にある。神のフィードバックとして、天使は神の「思考」の性質や方向づけのレベルを具現する。同時にすべての天使は、彼らの選んだ、もしくはガイドとして任命された、時間における体に調律される。その包括的な誘導能力における天使の位階の調整知性である銀河連盟は、すべての「生きもの」の思考と行為の完全な進化する記録を維持している。

17. 9. ガイドとして天使は、すべてのレディオソニックな「魂」の物質の回帰をその源泉である神へと誘導する。

17. 10. 潜在意識のフラクタル・フリーな思考波が、宇宙無意識と宇宙意識のいまも進化する恒星マスの未来の時間母体へと変異することは、超意識の体験と、祈りや瞑想という純粋な献身の形からの入力の質に依存する。

17. 11. レディオソニックな集合マスが、後有機・高次元の時間、「絶対的な未来」に回帰することは、超新星の励起における恒星マスの共振解放を表わし、前意識の思考の非有機形態として、時間を物質にもう一度投影しなおす。ひとたび潜在的な後有機意識に登録されると、共振集合マスは、パイロット天使プログラムとしての天使の位階の中でその役割ないし位置を引き受ける。

17. 12. 銀河連盟にパイロット天使プログラムとして従事することで、レディオソニックな集合マスは、新規の誘導機能に再任される用意の整ったフラクタル・フリーの波形として、神の心の知性デザイン座標（調整）の中で、自発的に改革される。

17. 13. 聖なる計画の数学論理としての時間の力学を意識的に完了させた、パイロット天使プログラムは、共時性秩序のいまという点としてのすべての時間に調律され、同時に、それが発生する元となった恒星マスの発光的な熱・光の特性の最終的な噴出にも調律される。



18.

平行宇宙への旅、他の銀河脳を訪ねる

18. 1. 超新星励起の際に、発光的な熱・光の特性が噴出することは、銀河連盟の高次瞑想プログラムのひとつの相互関連機能である。この瞑想プログラムは、超新星に向かう軌道にある恒星マスによって、もともと進化させられた知性のパイロット天使プログラムによって調整される。

18. 2. 恒星マスが自己発光的に崩壊する超新星へと最終的に爆発する、パイロット天使プログラムの瞑想集中のポイントは、平行宇宙あるいは他の銀河脳へとそのパイロット・プログラムの同時的な噴出を潜在的にする。

18. 3. ピーク時の励起噴出の前の、潜在意識の舵取りの知性の力によって、パイロット天使プログラムは、潜在的な知性と平行的な恒星マスの進化の前有機の初期段階を調整するために選ぶ、平行宇宙における目標を選ぶ。

18. 4. 平行宇宙あるいはその他の銀河脳は、時間ベクトル・ポテンシャルの意識へと進化する、時間における無限の数の体（進化体）のどれかの、存在の任意の瞬間によって表わされる変性可能性の無限の総計を表わしている。

18. 5. 平行宇宙あるいはその他の銀河脳はすべて、神によって等しく調整され、この宇宙あるいは銀河秩序との関連における次元性の鏡像的な拡張において共時的に秩序化されている。恒星進化すべての位相の共時性の秩序化のように、エネルギー—心の連続体のすべての可能性が現存する任意の瞬間において、あらゆる平行宇宙と銀河脳の進化の可能性の無限の秩序は、同様に入手可能であり、



到達可能である。だが、すべては、ホロノミック的に見分けがつかない、つまり、それらはすべてT  
(E) = A r tによって司られている。

18. 6. 平行宇宙は、進化体が体験し、それに応じて行為することを選ぶ時間におけるどんな思考の瞬間に対しても、それに共存する思考の瞬間である。そのような平行宇宙は、意識的な状態において、継続意識における引き延ばされた視覚化、そして超意識にとっての心像選択の影の保存として、すばやく体験することが可能である。

18. 7. 平行宇宙へ入る選択は、純粋な心に向かう進化に依存している。潜在的な天使性の体験を継続する選択は、努力に対する報いとして神によって授けられる。平行宇宙での再任を引き受ける天使性の努力は、菩薩、悟りを得た者として知られる道徳価値の機能である。

18. 8. 大菩薩は、銀河の移動を選ぶ天使の位階である。菩薩的な努力は、無限の銀河脳と世界系の、発光的に無限の鏡宇宙全体を通して、発光と光輝の果てなき全体場の実現に止むことなく向けられる。

18. 9. 天使階級の下位秩序である仏陀場ないしは覚醒した高次元の菩薩階級は、神の至高の覚醒した知性(仏陀の心/仏心)によって先導される、テレパシー的な放射知性の奉仕として統一される。

18. 10. 仏陀あるいは大菩薩は、超新星の励起が以前に目標とした平行的な世界系に向けてピーク

時に噴出した純粋な心の、パイロット的な天使の魂のボートの投影である。潜在意識に固有の時間を司る力によって、パイロット天使・大菩薩の投影は、平行的な恒星マスの成長と拡大の前有機・初期の時間位相を選ぶ。そこにある惑星が生命を持ち、それに対してテレパシー的に監視を続ける可能性を踏まえてのことである。

18. 11. 覚醒した心のテレパシー的な放射知性により、大菩薩的な天使の投影は、潜在的により低い進化世界を時間の法則の自己反射的な発見という意識的な平行宇宙の自覚（実現）に導く。

18. 12. どんな平行宇宙でも、意識としての時間の進化は、原初の宇宙あるいは銀河脳と同じ秩序で進行する。神のホロノミックな秩序は、複数の平行宇宙を区別しないが、存在するあらゆるタイプや共時性秩序のどのポイントにどの時間の位相が現われるかの記録も保つ。

18. 13. すべての時間はいまである。T (E) = A r t という共時性秩序は、ホロノミック的に、いまに全進化的なエネルギー・心のスペクトルを反映する。非有機、有機、超有機あるいは後有機であれ、機能の標準化はすべての秩序をいまと等しくする。神は常にいまに現存する。

19.

神

19. 1. 唯一の神がいるだけであり、唯一の神だけが、認められ、敬われる。

19. 2. 唯一、ひとりのスター・メーカーとスター・マスター、すべての宇宙の主がおり、そしてそれは神である。

19. 3. 神は、平行宇宙の可能性と順列（並べ替え）のすべてにおける銀河脳のすべての位相におよぶ放射状秩序の全方向的な完成、その確固たる真実である。

19. 4. 神の知識は、原子・細胞世界の最も小さな構成要素から、超有機レディオソニックの存在の超意識位相に至るまでの設計の細部すべてに本質的に備わっている。

19. 5. 神の秩序の完成は、普遍的に止むことのない時間の比、13:20 および、 $T(E) = Art$  としての機能によって共時的に維持され、それがゆえに神は、至高の芸術家、世界系の次元的なレベルと秩序すべてにおいて、宇宙の建築家とみなされる。

19. 6. 時間の法則の機能によって維持される宇宙の共時性の秩序は、「聖なる計画」を定義する。時間の法則の発見の前に、聖なる計画は、宇宙の無意識において開示され、時間における進化体の知性に「啓示」としてのみ自己反射的に知られるようになる。

19. 7. 時間の法則の発見は、宇宙無意識のポテンシャルの領域と、宇宙意識の時間統制を区別す

る。時間の法則の発見により、聖なる計画は、宇宙意識、共時性秩序となり、天空調波によってはっきりと表現され、いまや、あらゆる瞬間において明らかになり、数学的に一貫性を持つものとなっている。

19. 8. これまで未知で無意識だったものを意識化にすることによって、時間の法則の発見は、あらゆる者を神の元に位置づける。

19. 9. 神の元にあることが、審判の日である。審判の日は、時間の法則の発見によって定義され、これまで時間の科学が欠如していたために明らかな過ちだけがあつた所に正しく進む、最終的な啓示と知識の双方である。生物圏から精神圏への移行は、宇宙無意識の外部的な成熟であり、時間の法則の発見の結果生じる審判の日のひと連なりと同義である。

19. 10. 審判の日のひと連なりは、神の至高の啓示である。試験や試練の無意識の時間は完了し、時間統制が  $T(E) = Art$  の法則に応じて、自己存在的かつ自己反射的な聖なる計画の啓示の勝利および惑星生命の宇宙意識への拡大として開示される。

19. 11. 時間の法則の発見によりはじめられた時間統制の霊的な進化は、心が源泉へと向かう聖なる回帰である。無意識だったことを意識化にすることによって、時間統制の秩序は、時間のすべての体を、普遍的な超越の状況に進化させる。神は、普遍的な超越の磁石である。

19. 12. 時間の法則により作動する時間の進化体の自己反射的な自己制御は、来たるべき進化のすべてが、聖なる計画の位相からはずれて生きるという退歩がもはや不可能な、神聖で霊的な性質を持つものであることを確約する。

19. 13. すべては数字。神は数字だ。神はすべてに存在する。

預言の第4年、青い自己存在の嵐、勝利は確立する

自己存在の月22日、立方体16、キン44、黄色い倍音の種



人類の未来の進化のヴィジョンを具体化するために、新しい科学と知識に応じて可能な事柄を図式的かつ数学的に示すことが必要である。これが、双晶水晶の輸送の乗り物を提示する唯一の目的である。

視覚化された水晶がテレパシー輸送の実際の形をもたらすのに対して、放射投影的な花の幾何学としての5つのチャクラの連携は、実際にはこの輸送の乗り物の「モーター」（駆動装置）となる。視覚化の熟練は、感覚機能と水晶の輸送の乗り物とのあいだで調整された身体の中の、5つの主要な生命精神センターのそれぞれの感覚体験や視覚化と一致しなければならない。このような熟練と修練こそ



が、現時点では理想にしかすぎないものの、13 : 20 の計時周波数の中で完全かつ自由に生きることの機能となる。だが、この理想の知識なしには、12 : 60 の逸脱という現況からの進展は不可能だろう。

現時点で熟慮すべき最も重要なことは、完全な0-19 数学コードの純粋な投影としての双晶水晶の完成度である。

双晶水晶は、18 の面を持つ。2 つの先端部にそれぞれ6 面 (=12) と、ボディに6 面である (6 +12=18)。もしひとつのポイントが陽極にチャージされれば、もうひとつは陰極で、ボディの3 つの面は陽極になり、残りの3 つは陰極になる。したがって、ここには9 つの陽極面と、9 つの陰極面がある。陽極・陰極の極性は、それぞれの面のあいだにおいて固有のエネルギー力学を確立する、放射状二項 (※訳注:「二項放射状」に同じ) の相補数字の対称性を作り出す。それぞれの面はひとつの数字でコード化され、陰極の「1」からはじまり、それとは相補的な位置にある陽極のポイントの「2」がそれに続く。最初のそれぞれの先端部の3 つの面が完了 (1~6) すると、次にボディのそれぞれの3 つの面が同じ二項対称性パターンで投影される (7~12)。そして最後にそのプロセスは、先端部の面13~18 で完了する。

ここに4 つの個別の面の組がある。2 つの先端部の組と、2 つのボディの組である。2 つの先端部の組の数学的なコード化の総計 (54,60) は114 に等しく、それは19 (×6) という因数を持つ。2 つのボディの数学的なコーディングの総計 (27,30) もまた、鍵となる因数19 (×3) をもたらす。

したがってこの4つの組の総計 (171) の因数もまた、 $19 \times 9$  となる。

これは、プラスワン・ファクターの放射状数学を示す。ここでは、特定の配列の総計は常にその配列の最も高次の数よりもひとつ高い数によって常に因数分解される。双晶水晶の形の実際の数学を扱う際には、プラスワン・ファクターは、 $19 = (18 + 1)$  をもたらす。これは、19 という最大の要約数字 (summarizing number) のポテンシャルが、双晶水晶の完成度の中に暗に含まれており、「0」は、放射状かつ二項対称性の可能性をもたらず目に見えない軸であることを意味する。

すべては数字。神は数字だ。神はすべてに存在する (基礎条件 19, 13)。



時間の力学

---

白いスペクトルの魔法使いの年・月の月6日 KIN187 (2003年8月28日) 発行

---

著者：ホゼ・アグエイアス

訳者：高橋 徹

協力：パン・ジャパン

編集・発行：PAN ブックレット帯広

---

\* 「PAN 日本語翻訳チーム」による訳語の見直しなどにより、文章の語句を変更することがあります。